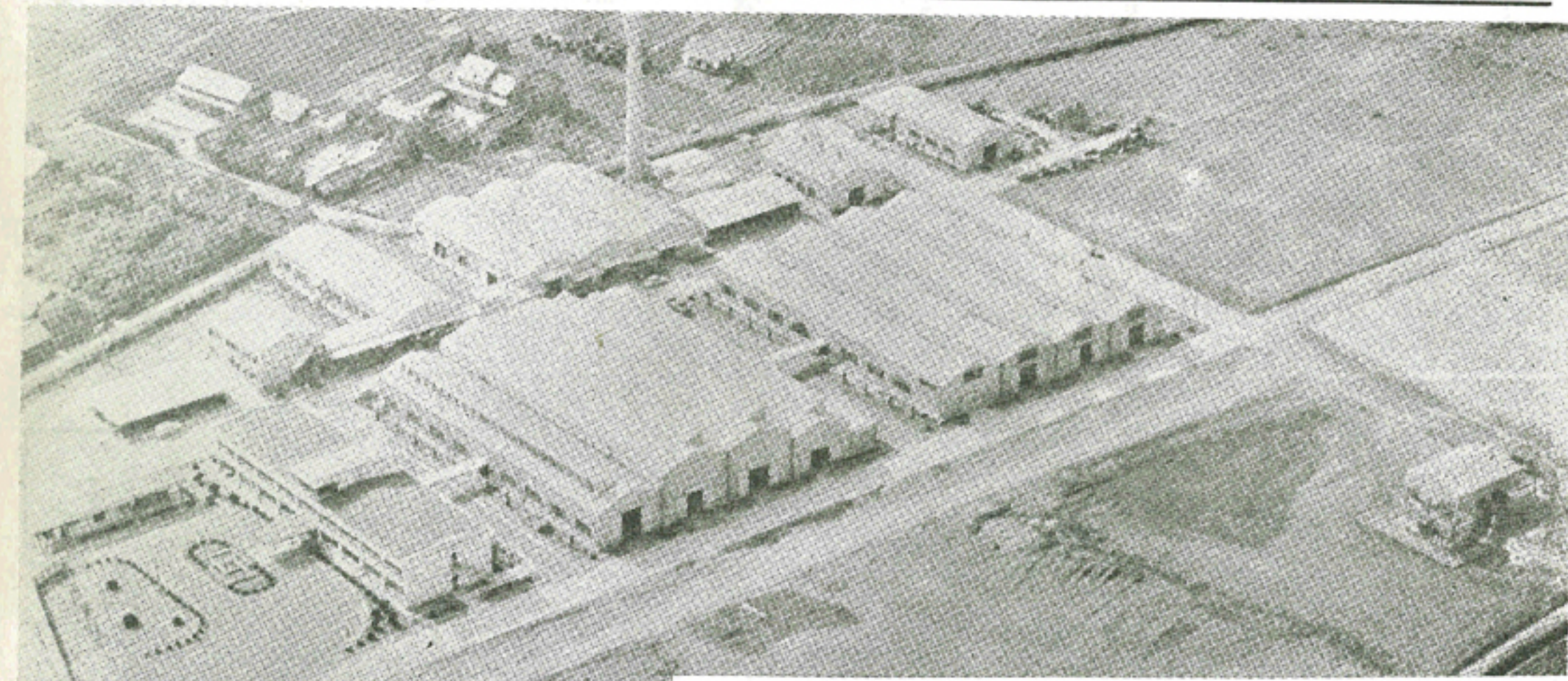


自動機械と自動制御機器

の中京電機

- | | | |
|---|---|--|
| <p>○ 自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 管球製造自動機械 半導体製造用自動機械 自動包装機 ストリップパッキングマシン 粉末小袋包装機 自動計量包装機 固型物定量包装機 カートニングマシン その他薬品食品自動包装機 産業用自動機械 硝子加工用自動機械 各種自動加工、組立機 | <p>○ 自動機器</p> <ul style="list-style-type: none"> セルシリンダー エアシリンダー エアバース エレクトロパンチ・ステーク ロータリーインデックステーブル ターレットボール盤 オイル・フィルター、レギュレーター 各種空気機器 各種油圧機器 | <p>○ 制御機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ソレノイド ソレノイドバルブ リレー 電磁カウンター <p>○ 電子機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 複写電送装置 各種電子機器部品 |
|---|---|--|



大阪営業所開設 梅ヶ枝町電停北2筋目西入る
新梅ヶ枝町ビル2階

4月25日より大阪営業所を開設、営業を致しておりますが、販売要員を募集致しておりますので御協力お願い致します。

大学、高校卒35才位までの販売経験者、又は機械、電気科の技術者で通勤可能の方を希望いたします。

詳細については本社・森本まで御照会下さい。

CKD 中京電機株式会社

取締役社長 嘉納 輝彦 (昭12)

常務取締役 森本 秀勇

本社・工場 愛知県小牧市大字北外山字早崎3005番地
 東京営業所 東京都中央区銀座東6丁目7番地 木挽館ビル新館806号
 名古屋営業所 名古屋市中村区下広井町3丁目15番地
 大阪営業所 大阪市北区梅ヶ枝町108番地 新梅ヶ枝町ビル2階

電話(小牧)315140
 電話(542)134640
 電話(5)842140
 電話(362)905140

読者の声

映画「さむらいの子」
を見て

松本信男

(昭一六後)

母校を卒業して数十年経っても、再び小樽を訪れる機会を持たない方が多いと思います。そんな方には、先般封切られた「さむらいの子」をお奨め致します。

時代劇と思われ、題名ではありませんが、昨年小樽の街でロケが行われ、バタ屋の生活を撮った現代劇であります。封切を、いまかまかと待ち受け、一番に映画館にかけつけました。

進軍の歌を唱しつゝ登った坂道。メッチェンを求めて散策した記念碑と白樺の木々の懐しい花園公園。港。波止場、花園小学校等々が二十年前と、ほとんど同じ姿で目の前に映し出された時には、そのストーリーを追うことも忘れて喰い入るように画面を見続けた次第です。

残雪を頂いた山々を背景にチャックと商大の校舎が見えたと思つたのは私の錯覚だつたでしょうか。

数日後、家内を連れて再び観賞しました。

「緑丘」を讃える

寺田 弥一郎

(大10)

関西版「緑丘」を初めて贈られたのは五年前の第二版からであった。先日私は書架を整理している際、予て綴じ込んである、この小冊子の集録を拾い読みしながら、毎度感心するのは、お世辞抜きに、その編集ぶりの堂に入った出来栄である。最近定期刊行物としてP・Rものや趣味の雑誌、あるいは会社、官庁など機関誌の数は実に夥しく氾濫している。しかし、いくらか外観だけ美麗でも、また頁数ばかり多くても、その内容が空疎で読後感に興味を持たないようなものなら価値はない。

ところが「緑丘」は、もともと一地方支部の機関誌として発足したもののだが、版を重ねること既に三十回毎号着々と内容を拡充し、多数同窓、諸兄の母校愛に繫つて驚くばかりの発展を遂げ、いまや全国版的様相を呈するまでに真価を発揮するようになった。いふなれば宮々として続刊してきた入魂の努力が漸く酬いられた緑丘同人の横の連絡と親睦とに多大の役割を果たしてきた証左であり、斜読精読その何れにしても親近感

溢れる同窓の消息を窺い知り、また母校の近況や随筆、感想文など極めて適切多彩な記事が読者を魅了するだけの特色があるからであらう。とかく我々は活字になつたものを読んだり批判したりするのは、さほど苦勞しないけれども、もし、これを自らの手で編集すると仮定したら、およそそれは想像しただけでもウンザリするほどの煩しさを感ずる、また大変な負担に違いない。

それだけに本誌の誕生以来、物心両面に寄与された幹部諸兄への感謝は申すまでもないことながら、ことに創刊以来企画、編集の難事を一手に引受け、しかも多忙な本職の傍ら無類の情熱を傾け尽して、ここまで立派なものに育て上げた墓目編集長の献身的努力は、まさに表彰ものであらう。考えてみると自分の日記でさえもなかなか続かないものだ。私は中学生のころ、暮れに博文館の日記帳を買ひ込み、明けて元旦、大いに張り切つて、その年の心構えなど書きぞめしたもののだが、僅か半月も経たぬうちに書く材料がなくなり、いつか日記をつけるのが億劫になつて放り出してしまつたことがあつた。他人に読ませる必要のない日記ですら、この始末だから、おそらく私と同じような経験をした人も多からうと察せられる。

創刊当時私は発刊を祝し、どうか三日坊主に終らぬよう呉々も御尽力を乞ふと礼状に書き添えたように記憶している。それが三日坊主どころか回を重ねるごとに光彩を放ち、鮮くも満五周年を迎えたのだから、鮮

やかというか、お見事というか、編集者の卓抜な手腕と粘り強さにホトホト感心させられるのである。確かに仕事は人であり、読み物は量よりも質である。いうまでもなく、我々は社会人として時流に即応し、それぞれの職域に於いて新しい専門書の知識を補給しなければならぬ。がしかし堅苦しいものばかりでは頭脳の休養にならないから、時として硬軟取り混ぜ読書の醍醐味を満喫する工夫が大切なものではあるまいか。

元首相の吉田さんが半七捕物帖の愛読者であつても、池田さんが吉川英治のファンであつても、それは少しもお可笑しくないだろう。近來私は痼疾の高血圧障害のため、医者に注意されて読書はなるべく肩のこらないものを選ぶことにしている。「緑丘」は、この点最もその条件に適しているばかりでなく、いつも一家団樂の雰囲気似たものを感じ、心の憩として気軽に、愉しく読ませてくれる功徳は頗る大きく、一夜にして読み捨てるのは惜しいような気がするとささやえる。

といつても私は必ずしも紙数の老成を望んでいるわけではない。なぜなら現在のまゝでも充分その使命を果していることに満足しており、余り拵げすぎると、却つて手不足などのため、事務が滞りたり、あるいは内容が稀積されたりする逆効果を中心配するからである。

もつとも人一倍の情熱と奉仕精神に徹した主幹の逞しさを判断してこのような懸念は杞憂にすぎないかもしれないが、ともあれ、呉々も健

康管理に自愛せられ、今後より一層必読、不可欠の機関誌として完璧なものに仕上げて頂きたいものと只管念願している。

母校現況の特集号を

西川 正己

(大15)

年に一、二回は特集号を出して頂きたいとは皆さんの望みだと思いません。次回の特集号に小樽特集に次ぐものとして「母校現況特集」をされましたら如何でしょうか。遠い昔の

母校の面影を懐しむと同時に母校の現況が、どんなであろうかとか関心を持つ人々が意外に多いのではないのでしょうか。

まんびつ五人集(二〇頁から)

表紙絵にちなんで

去って行った一人の作

家と二人の人間国宝

墓目 英三

(大阪支部)

村瀬立先生

昭和三十八年五月六日逝去されました。ここに謹んで御知らせいたします。

村瀬立先生の

思い出

西野 嘉一郎

御元氣な村瀬先生が他界された。我國の簿記、会計学の先覚者として自他共に許していた先生が、いまはこの世にいられない。私に会計学を最初に教えて下さったのは村瀬先生である。大正十二年私が小樽高商(現小樽商大)に入学したときは、村瀬先生は簿記、会計学の教授として

外遊から帰られてまもないときの事であったと思う。先生の会計学の講義ぶりは、まったく大したもの、むずかしい会計学の原理を簿記の知識からとぎだし極めて平易に教えていただき、特にまだ我國会計学にはとり入れられていなかった、新しき学問の分野である経営分析の手ほどきをしていただいたのも先生である。今日経営分析に興味をもち、幾冊かの著述ができたのも先生のおかげであると思う。先生はなかなか英語が堪能でアメリカ会計学に対して当時の学界に北海道から新風を送られていたことと同じ大正十五年四月、東京商大に招かれて同様に御乗転されて以後、中央において会計学の一方の長老として大いに活躍されておられた。特に先生の御活躍は戦後G・H・Qとの間に深遠なる学識と堪能なる語学

力を充分に活用されて、我國の企業会計制度特に公認会計士制度の確立に全力をつくされた。私も当時これらの委員の一人として御無沙汰していた先生に、しばしば御目にかかる機会を得ることができた。先生は独特な表現で委員会の席上で、その熱情を傾けられていた。昨年の春であったと思う。日本大学の経営研究所の一室で御元氣な先生が、それから講義においてになる時に、「どうも会計学が、こんなに普及しているのに学生の簿記の知識がまことに足りない。慨歎にたえない」と悲憤慷慨しておられた先生に「お目にかかったのが最後と思う。簿記を基礎としたアメリカ会計学の樹立に一生をささげられた先生の後継者が、会計学界に続出されることを私は心より熱望して先生の御冥福を御祈りするものである。」(大15)

「男泣くなら人形のように首で泣かず」に腹で泣け

去る六月八日、十日と続いて日本工芸界の人間国宝、陶芸の富本憲吉染色家の稲垣稔次郎の二人を失い、大きな損失を憂いていた時十一日には「香掛時次郎」「臉の母」「一本刀土俵入」の作家、長谷川伸が亡くなった。間もなく週刊紙は揃って彼のシンのある人物評を伝えた。朝日ジャーナルは戸川幸夫の言葉に「作家というものは売れる原稿ばかり書いてはいかん自分のための原稿を書きなさい」とさとされたとか、また村

上元三はかれが戦後「書き度いものを書くのではない。日本人として書かねばならぬものを伝えるのだ」といわれたことを書いています。戦後「日本捕虜志」のような地味な仕事で着々と「志」を実行に移し、この記録文学の仕事は一種の「述志の文学」として後世に残るべきものであるとも伝えていた。この色紙を見ていると、彼の気骨のある前二者の言にも一脈相通するものを感じる。

一昨年の初夏の頃、東京の高島屋で富本憲吉作陶五十年記念展を見た。染付大和川急雨の大皿が私の目を離さなかった。「床の間の飾りものは本もの、工芸ではない」といつておった富本憲吉氏であっただけにやがては我々の手の届く作品が得られる事を期待しておった矢先に、この赴報であり、誠に残念だった。

稲垣稔次郎氏の作品はこの「緑丘」(京都支部特集号)表紙にも日本新薬佛森下社長(大14)の許しを得て同社のカレンダーから拝借した事がある。

作品に品位のある個性を打ち出し神経の細かく行き届いた、豊かな創造力を仕事に現わし、青と黄と紫を好んで使用した。「型絵染」の大家であり芹沢銈介と共に日本工芸界の双壁であった。

緑丘会

東京支部定時総会

5月21日

新入会員を迎えて約百名参集

五月二十一日梅雨の走りかと思われるような、しとしとと降る雨のなかを会場である新大手町ビル地下グレルに、続々と緑丘人がつめかけて来る。蒸暑い東京の夜である。今日は東京支部の定時総会、引続いて新入会員の歓迎会を兼ねた懇親会が行われるとのことで、学窓を巣立ったばかりのフレッシュユマンが四十数名出席者合せて百名におよぶ大会である。このように多数が集まったのは最近では稀であるとか。あちらの隅こちらの溜りで開会を待つ間、談笑しきり。態々ご上京の加茂学長も至極ご満悦のご様子である。

- ① 三十七年度の主な行事
 - 三十七年二月 母校学生視察団上京
 - 三十七年五月 総会開催
 - 三十八年一月 銀座ビヤホールにて懇親会開催。
- ② 支部報発行の件
 - 年三回発行したい。会員の動静写真など原稿をどしどし事務局へ
- ③ 役員改選の件
 - 引続き上村支部長にお願いしたい
 - 旨要望があり、上村氏も現役員全員留任を条件として就任を承諾された。

六時開会、議案審議に先立ち上村支部長立って挨拶。苦米地先生が今年数え年八〇才になられるので、東京支部として秋にでも、お祝を差上げた。ついで議事に入り。一、昭和三十七年事業報告の件(武岡副支部長)

- 支部長 上村 甚四郎氏 (大正四年)
- 副支部長 小貫 武岡氏 (昭和二年)
- 他理事、監事、評議員、全員再選

緑丘会東京支部役員

東京都中央区銀座東7の6(双葉ビル6階) TEL(542)0032

- ◎支部長 上村甚四郎(大4)
- ◎副支部長 小貫 武(昭2) 武岡嘉一(昭3)
- ◎理事
 - ◎村瀬立(大6)
 - ◎三兵衛(大8)
 - ◎守親(大10)
 - ◎岡田良(大12)
 - ◎石川武(昭2)
 - ◎高橋恒(昭4)
 - ◎手島健(昭6)
 - ◎齊藤勇(昭8)
 - ◎川島正(昭10)
 - ◎八野正(昭12)
 - ◎野沼三(昭14)
 - ◎大河成(昭16)
 - ◎成田津(昭17)
 - ◎赤津山(昭19)
 - ◎森田正(昭21)
 - ◎掛野正(昭23)
 - ◎浅野正(昭25)
 - ◎青杉正(昭27)
 - ◎加藤正(昭29)
 - ◎藤原正(昭31)
 - ◎山本正(昭33)
 - ◎杉本正(昭35)

懇親会に移り、老いも若きも皆んな詰襟姿の学生に返って冷たいビールで喉をうるほした。学長のご挨拶は学園の近況に焦点を絞られ、学生会館 四四〇坪の建設が文部省の認可となったこと。日本の大学では初めての優秀な管理機械を導入したこと。現在の木造校舎は当局への度重なる交渉により、鉄筋コンクリート校舎に生れ変わる日も近いこと。との熱の入った力強いご報告があり限りなく発展してゆく母校の前途に思いを馳せ、一しほ深い感激を覚えた。さらに学長は話を続けられ「優秀な数多くの教授を招聘するために、ぜひとも大学院の設置を実現する必要がある」と強調された。学長の誠意と熱により必ずやことこの成就是実現するであろうし、また我々もおよばずながら、できる限りのバックアップを惜しむものではない。(N記)

新役員発表さる

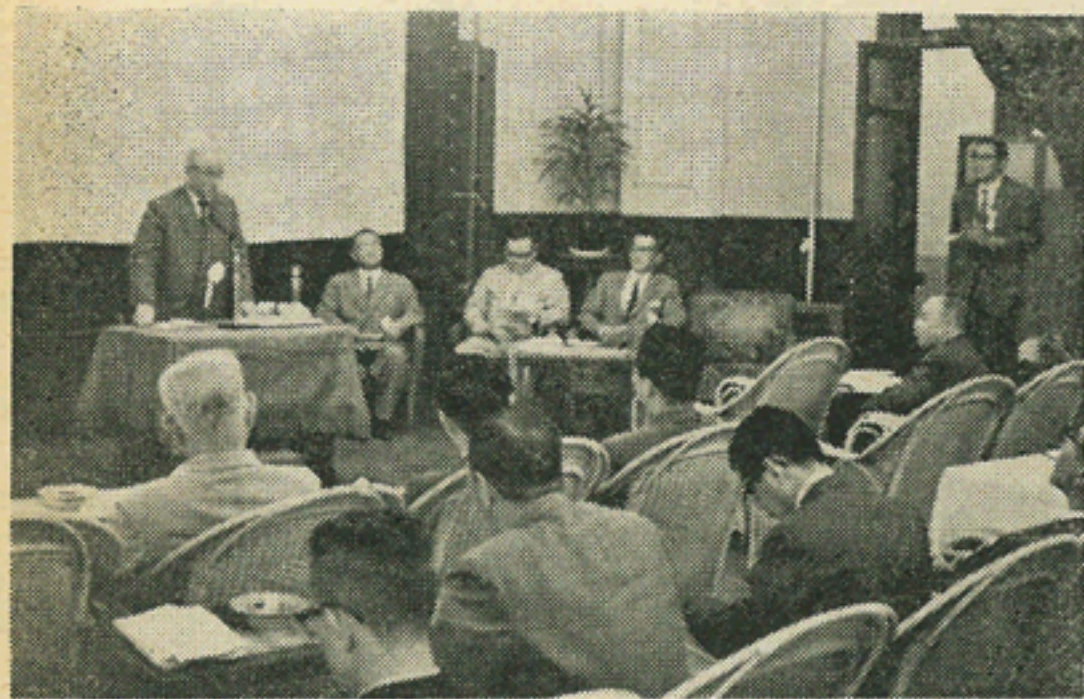
5月22日

新入会員歓迎

大阪支部定時総会を開催

大阪支部長 石田平八氏(昭二)
 副支部長 滝沢中氏(昭三)
 “ 墓目英三氏(昭一)
 幹事長 若山永太郎氏(昭一三)
 副幹事長 木村氏(昭一三) 山内氏(昭一六後)服部氏(二三)

本年度の大
 阪支部総会は
 五月二十二日
 午後五時三十
 分より、大阪中之島の銀行協会で開
 かれた。
 集った会員三十数名。特に母校よ
 り加茂学長、椎名元教授をはじめ、



加茂学長母校の近況を語る

東京支部より
 神田事務局長
 のご出席があ
 るなど、大阪
 支部の総会の
 占める意義の
 大きさを物語
 っていた。
 本日のメイ
 ソンイベントは
 定例の議事の
 外に、旧寮の
 面影を止めた
 フィルムの映
 写および、グ
 ャットくだけた

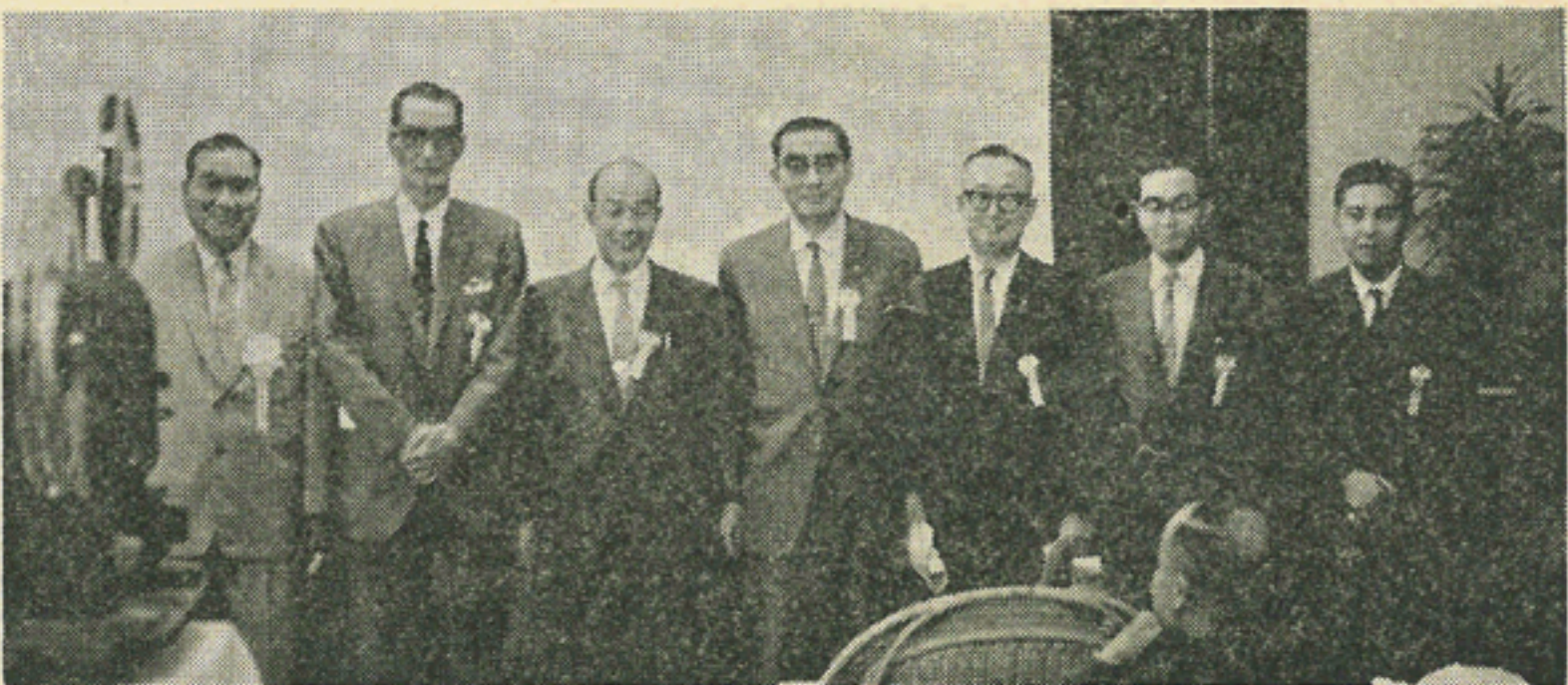


感謝の意をこめて前天野支部長へ記念品を贈る石田新支部長

パーティーでの懇親などがビツシリ
 と予表表に詰っている。この進行係
 を担当した名司会若山副幹事長の
 「各挨拶および報告をなさる方は、
 それぞれ受持ちの時間を限定してお
 ります」との異色発言に、満場ドツ
 と爆笑したが、どうもこれは出席者
 各位の賛意の意思表示であると看取
 された。
 この注意を誠実に履行された各壇
 上の役員の方々は墓目幹事長の一分
 三十秒の開会の辞、天野支部長が制
 限時間を二分節約するなど、次々と
 議事は進行し、そのたびに和気藹々

ムードの拍手が続く。
 加茂学長の挨拶は、母校の新たな
 校舎の設計図に基く説明と、母校
 運営の抱負を語り、卒業以来三十年
 のOBにも、若い血潮を魅させた。
 次で本年度の役員改選に議事が移
 行する。これは新役員詮衡委員とし
 て天野委員長のほか、畑、堂城、墓
 目の三顧問格の委員、計四氏によ
 り別室で何やら慎重協議の結果、天
 野委員長より上記の通り(見出)発
 表された。
 石田支部長をはじめ、何れも誠に
 適任の方々ばかりである。副幹事長
 に新しいところが起用されたのも、
 大阪支部の今後の発展振りが約束さ
 れるようで、好感が持てる。
 万雷の拍手のなかに新役員が紹介
 され、カメラ班がパチリ。どうぞよ
 ろしく。
 次で本年度母校卒の新人(出席者
 七名)が自己紹介する。毎年のこと
 ながら、若い人の加入はフレッシュ
 で気持ちがよい。
 これで議事はすべて進行し、加茂
 学長持参の、旧寮の姿と、生れ変っ
 たスマートな現在の寮の映写が始ま
 った。
 パット白いスクリーンに映し出さ
 れた画面は、美しいカラー写真であ
 る。「これは大急ぎで編集したばか

りで、今日はお目にかかるも
 のです」との加茂学長の解説に、出
 席者一同、これを見る機会を得た幸
 福をかみしめる。



新役員の見聞
 (左から) (大阪支部長) 石田平八氏
 (昭二) (副支部長) 滝沢中氏 (昭三)
 墓目英三氏 (昭一) (幹事長) 若山永
 太郎氏 (昭一三) (副幹事長) 木村章三
 氏 (昭一三) 山内孝氏 (昭一六後) 服部
 晋氏 (昭二三)

旧寮のありし日、二寮の炊事場、
 雪深く埋った懐かしい寮が小樽の大自
 然に美しく、いま眼前にある……。
 やがて解体が始まる。生れ変わるた
 めのプロセスではあるが、惜寂の感
 一入である。

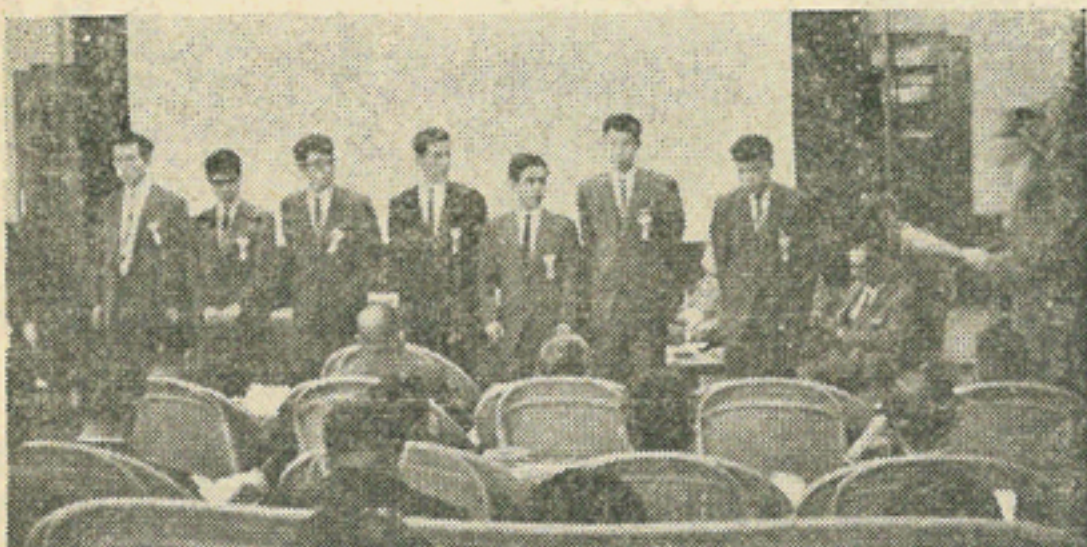
そして近代的なスマートな寮が画
 面で紹介されると、後輩のためにそ
 の幸せを一同祝福した。
 映画が終ればいよいよパーティーで
 ある。若山新幹事長立って「先程か
 ら、よりぬきの美人ホステスが待期
 しております」との紹介に、別室の
 会場には、遽かにくつろいだムード
 が醸成される。

やがて加茂学長の音頭により、グ
 ツと乾杯。従来と変わった、この総会
 のパーティーは、大阪支部の役員が考
 えた新しい趣向であるが、仲々味が
 ある。新旧人それぞれ入り混っての
 懇談は、まことに緑丘同窓生を縦に
 横に、強く温く結ぶ快的な一刻であ
 る。

新幹事長若山永太郎氏から前支部
 長天野雅司氏に記念品贈呈の件をは
 かり満場拍手を以て賛成、新石田支
 部長から記念品が贈られる。その時
 突然堂城不二人相談部長中央マイク
 に現われ、大阪支部発行の「緑丘」
 を褒めたたえる発言あり、編集室墓
 目主筆が「何事か？」と目を見る
 間もあらばこそ「この刊行のかけの

功労者たる墓目ご令室のご労苦に対
 し、心ばかりのお礼を申し上げたい
 と、衆議一決、全員から感謝の意の
 集結が墓目副支部会長の下に届けら
 れた。拍手、拍手。
 墓目氏顔面やや紅潮(ご令室のこ
 とは、矢張り恥しいのでしょうか)
 「これは緑丘に寄贈します。しか
 し、お志はまことに嬉しい」と爆弾
 的な謝辞を述べられる。これに対し
 万場重ねて意のあるところを伝え、
 就中堂城氏は「コラ、君の奥さんに
 対しての感謝を、亭主が横道にそら
 すなんて、承知せんぞ」とユーモ
 ラスなお叱りまで飛びだす有様。ま
 ことに美しいこの友愛、緑丘万才、
 「緑丘」誌ブラ
 ボーである。

かくて懇談が
 続くうちに、若
 山司会の指名に
 より、各テーブ
 ルから、それぞ
 れ代表の人がマ
 イクに立って、
 一席づつのテー
 ブル・スピーチ
 が始まる。小樽
 卒業以来、重ね
 た年功は、数数
 の体験談、珍演
 奇談が多彩に盛



上 新入会員紹介 下 新人による「銀鱈おどる……」

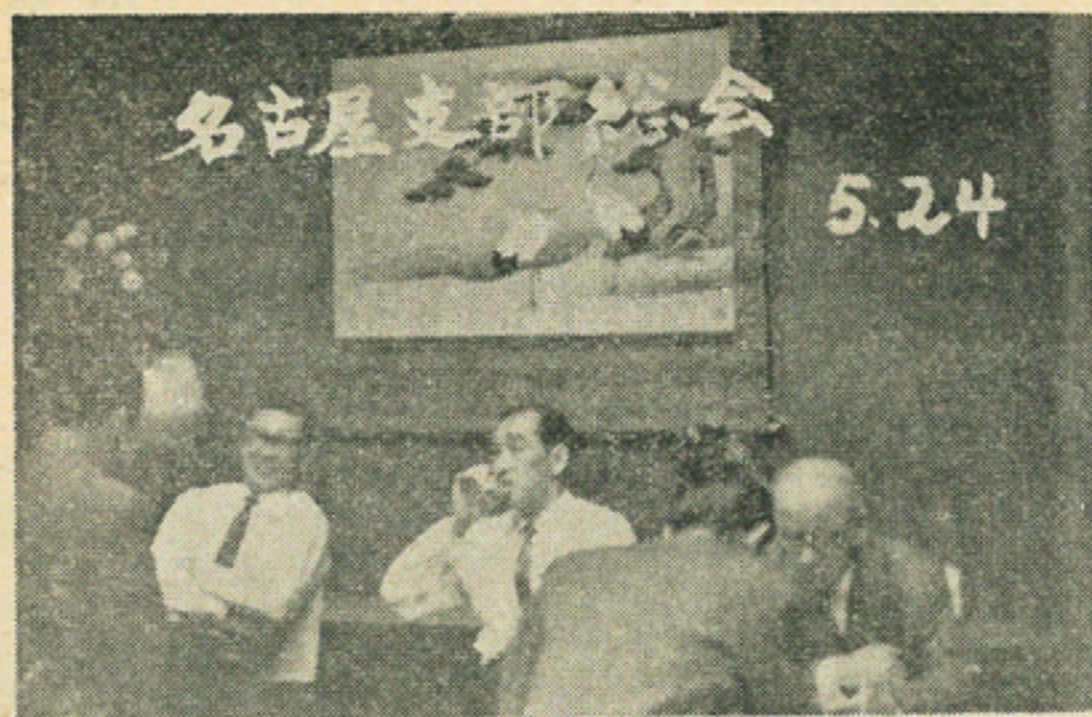
られ、ビールの快にのみと化して
 懇親の度はぐんぐんと上昇して行く
 話しはつきないが、既に時刻は過
 ぎた。新人を中心に校歌が合唱され
 そして「夕焼美わし緑ヶ丘よ」の懐
 しいメロディーに会場は陶醉した。
 かくて前支部長天野雅司氏の音頭
 で母校の万才、椎名先生の音頭で緑
 丘会大阪支部の万才が、拍手のなか
 に中之島にこだまして会は終了した
 退場の全員に、松村タオル店(昭
 十六後)寄贈の「祝緑丘会総会」と銘
 打ったタオルに加え、今年も美しい
 カーネーションの花束が三芳園西谷
 氏(昭一三年)から贈られ文字通り錦
 上添花を添えた今日の総会であった。

名古屋支部総会

幹部役員の努力実って

開設以来の盛況となる

近年稀な長雨も漸く晴れ間を見せた五月二十四日、名古屋市の中心テレビ塔横の割烹「円庄」で加茂学長の御臨席を得、併せて新入会員六名の歓迎を兼ねて総会を開催した。定刻の午後五時半を過ぎる頃、緑

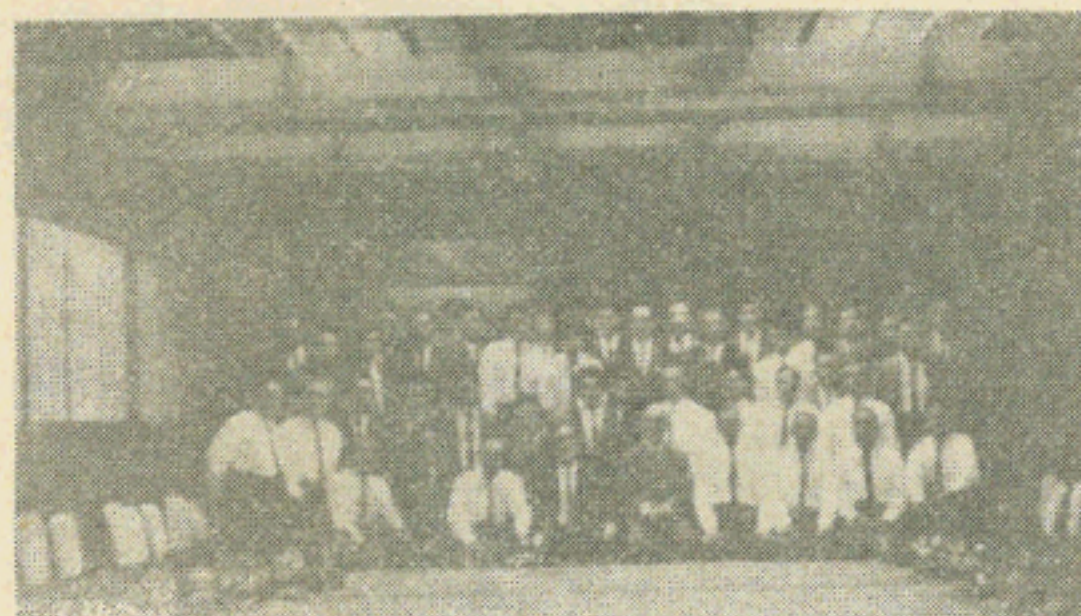


(左から) 増田支部長、神田事務局長 (東京) 加茂学長

丘人が続々と詰めかけ、当日の飛び入りもあって予定人員を突破して、四七名の多数となり、女中は慌て、席を増設する仕末であった。恐らく支部初って以来の盛況である。総会には高橋幹事の司会によりスムーズに片付いて全員それぞれ特性を發揮した自己紹介が終って宴に入った頃、加茂学長と東京支部神田事務局長が京都から名古屋着、加藤利雄緑丘人の案内で全員拍手の裡に着席され、一挙に総会の気運は盛り上って来た。偶々石田大阪支部長の代理として若山永太郎幹事長がお忙しい処を大阪を代表して来場されたことも錦上花を添えて名阪両支部の緊密化に役立ったことは見逃せない。

増田支部長、山田幹事寄贈の酒が廻り高橋幹事持込の「サツポロシヤイアンツ」のよく冷えた生が次々と乾盃されるころ、学長、神田局長の最近の緑丘学園の状況、設備拡充の御挨拶に集まった。緑丘の古きも、新しきも追憶の情一入であり、でき

得る限りの協力を約束した次第であった。若山幹事長の大阪支部の現況紹介の御挨拶もよき参考となった。宴酬を過ぐる頃、突如として古関周蔵(元名古屋支部長、千代田火災海上会長) 手島恒二郎(千代田火災海上社長) の両大先輩が出現、会場



記念撮影

は拍手と感激のどよめきに巻き込まれてしまった。御案内は差上げてあったが、偶々社用で御来名の寸暇を割いて御出席になったもので、全く頭の下る思いであり、緑丘人たる後輩の幸をしみじみと感じ取ったことである。古関先輩は、やおら中央に進み出て「黒田節」を朗々とやられたが、

我々としては全く初めての拜聴であったから、皆大喜びであり、驚きでもあった。学長の無形文化財的扱い喉、手島、神田両先輩の「追分」——美声、そして節廻しのよき、本職ではないかしら、さらに増田支部長の「森繁調船頭小唄」——これは立型と唄を一人で演出するので非常に難しく、いわゆる奥伝であり、名取程度の喉前足前でなくてはできない、村田先輩の流行歌等々大先輩の演出は尽くる処を知らない。後にはならじと思いきや、三七年卒の新人六名いきなり舞台にて肩を組み「王将」の合唱とはなった。宴も終幕に近づく頃、新入会員のリードにより、古きと新しきと我々は肩を組んで校歌、進軍歌と斉唱したのであった。

最後に学長、学園の万歳を三唱して散会したのは九時に近かった。

○ 当日の出席者

- (大二三) 古関 周蔵
- (〃) 服 千代田火災海上
- (〃) 蓮 中部証券 金融
- (〃) 増 田 常次郎
- (〃) 神 田 正英
- (〃) 村 田 錦一
- とみや 証券

昭和三十八年度 緑丘会京都支部総会

(日時) 昭和38年5月23日午後6時
(場所) 京都市中京区木屋町御池上ル、新ハマムラ木屋町別館



瀬川のほとりで遠路より加茂学長、神田氏を迎え開催された。まず、学長持参の天然色8ミリの「智明寮」の映写に始ったが、一同旧寮のとりこわしに惜別の感を、新寮の近代設備に羨望の感を抑えきれない面もあつた。次いで懇親会に移り恒例の自己紹介が行われた。席上、森下支部長から京都経済同友会募集の懸賞論文に小田島氏が入選(当日発表)した旨紹介もあり、懐旧談(寺田氏の欠席を残念がる神田氏の声もあり)近況談に花が咲いたが、九時すぎ再会を約して散会した。

当日の出席者は次の通り
(来賓)

- 加茂儀一(小樽商大学長) 神田正英(緑丘会東京支部事務局長) 宮地邦介(小樽商大後援会関西事務局長) 藪目英三(大阪支部副支部長)
- (支部員)
- 久保吉幸(大二三) 森下弘(大一一)
- 四) 桐田鉄郎(大一一四) 山村太兵衛(昭一一二) 松本義夫(昭一五)
- 藤原輝雄(昭二二) 茶木博治(昭二五) 我満博仁(昭二五) 小田島和夫(昭三一) 神田隆志(三三六)
- 田中政二(昭三六) 石丸祥年(昭三七) 笹島康平(昭三八)

身も心も洗うが如き沛然たる雨のなか、第五回緑丘会京都支部総会は昔をしのぶ絶好の地、京木屋町、高

- (昭二) 手島 恒二郎 千代田火災海上
- (昭四) 高橋 一男 日本ビル
- (〃) 浦 英祐 電機
- (〃七) 遊 三憲 三電
- (〃一一) 弓 拓 友友石炭礦業
- (〃一二) 森 本 秀男 電機
- (〃一三) 若 山 永太郎 北海道炭礦汽船
- (〃一五) 新 崎 嘉 丸 機械
- (〃一六) 田 中 秀雄 自動織機
- (〃一七) 山 拓 田 稔 商
- (〃一八) 山 日 光 鳳 商
- (〃一九) 小 宮 保 雄 商
- (〃二〇) 中 丸 茂 博 電機
- (〃二二) 中 田 秀 郎 高機
- (〃二三) 中 丸 茂 博 高機
- (〃二四) 山 藤 業 博 高機
- (〃二五) 北 山 三 勇 喜夫 山
- (〃三〇) 日 持 資 郎 東陶器
- (〃三三) 高 千穂 光 交易
- (〃三四) 青 木 匡 商
- (〃三五) 加 藤 利雄 商店
- (〃三六) 尾 倉 剛 電機
- (〃三七) 佐 藤 良雄 商
- (〃三八) 荒 井 良郎 商
- (〃三九) 山 下 正二郎 産
- (〃四〇) 山 井 正二郎 産
- (〃四一) 木 下 正二郎 産
- (〃四二) 井 下 正二郎 産
- (〃四三) 井 下 正二郎 産
- (〃四四) 井 下 正二郎 産
- (〃四五) 井 下 正二郎 産
- (〃四六) 井 下 正二郎 産
- (〃四七) 井 下 正二郎 産
- (〃四八) 井 下 正二郎 産
- (〃四九) 井 下 正二郎 産
- (〃五〇) 井 下 正二郎 産
- (〃五一) 井 下 正二郎 産
- (〃五二) 井 下 正二郎 産
- (〃五三) 井 下 正二郎 産
- (〃五四) 井 下 正二郎 産
- (〃五五) 井 下 正二郎 産
- (〃五六) 井 下 正二郎 産
- (〃五七) 井 下 正二郎 産
- (〃五八) 井 下 正二郎 産
- (〃五九) 井 下 正二郎 産
- (〃六〇) 井 下 正二郎 産
- (〃六一) 井 下 正二郎 産
- (〃六二) 井 下 正二郎 産
- (〃六三) 井 下 正二郎 産
- (〃六四) 井 下 正二郎 産
- (〃六五) 井 下 正二郎 産
- (〃六六) 井 下 正二郎 産
- (〃六七) 井 下 正二郎 産
- (〃六八) 井 下 正二郎 産
- (〃六九) 井 下 正二郎 産
- (〃七〇) 井 下 正二郎 産
- (〃七一) 井 下 正二郎 産
- (〃七二) 井 下 正二郎 産
- (〃七三) 井 下 正二郎 産
- (〃七四) 井 下 正二郎 産
- (〃七五) 井 下 正二郎 産
- (〃七六) 井 下 正二郎 産
- (〃七七) 井 下 正二郎 産
- (〃七八) 井 下 正二郎 産
- (〃七九) 井 下 正二郎 産
- (〃八〇) 井 下 正二郎 産
- (〃八一) 井 下 正二郎 産
- (〃八二) 井 下 正二郎 産
- (〃八三) 井 下 正二郎 産
- (〃八四) 井 下 正二郎 産
- (〃八五) 井 下 正二郎 産
- (〃八六) 井 下 正二郎 産
- (〃八七) 井 下 正二郎 産
- (〃八八) 井 下 正二郎 産
- (〃八九) 井 下 正二郎 産
- (〃九〇) 井 下 正二郎 産
- (〃九一) 井 下 正二郎 産
- (〃九二) 井 下 正二郎 産
- (〃九三) 井 下 正二郎 産
- (〃九四) 井 下 正二郎 産
- (〃九五) 井 下 正二郎 産
- (〃九六) 井 下 正二郎 産
- (〃九七) 井 下 正二郎 産
- (〃九八) 井 下 正二郎 産
- (〃九九) 井 下 正二郎 産
- (〃一〇〇) 井 下 正二郎 産

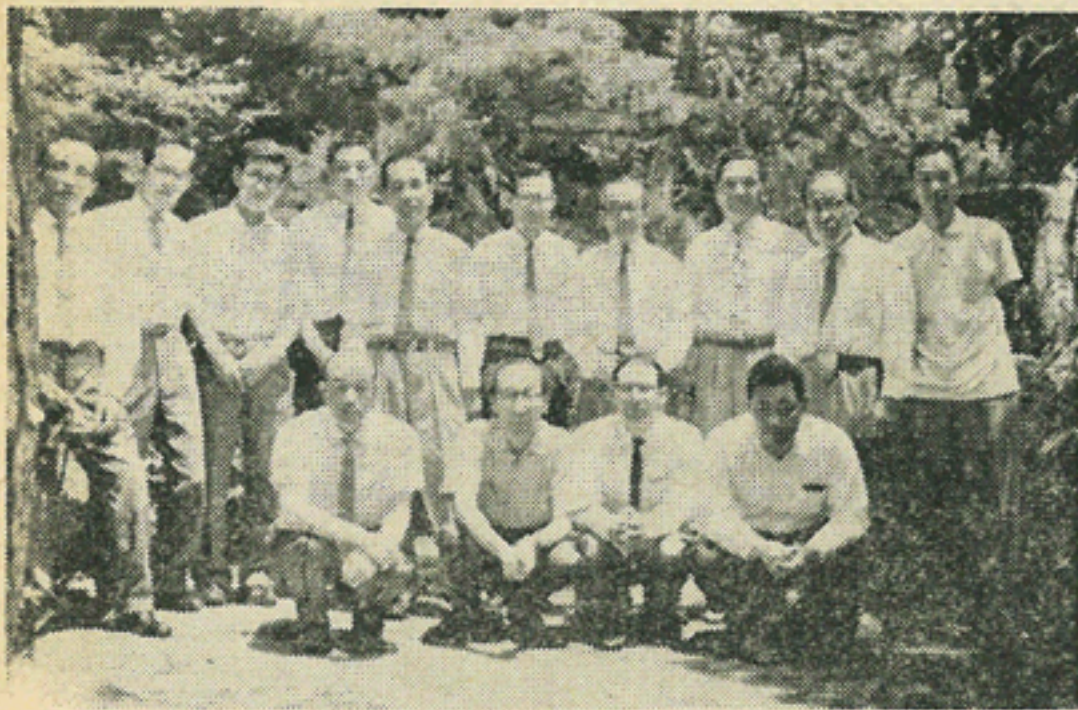
岡山支部第八回総会

尾崎別荘に

中野清一先生

御夫妻を招いて開く

六月二十三日



瀬戸内海に面したこゝ児島市田ノ口尾崎別荘には昨夜から広島大学の
中野清一先生(大
一五)御夫妻、緑

丘編集長墓目英三氏、村岡(昭八)尾崎(昭九)の岡山支部両幹事が泊り学生時代の懐い出話に夜遅くまで語り合ったという。
梅雨空もからりと晴れ渡り、瀬戸内海児島の白砂に打寄せる波も静かで、遠く四国の連峰が初夏の霞にかすんで見える。

今日は日曜日であり、一〇時頃には西山正夫(大一一五)はじめ、猪木金人(昭八)大倉五郎(昭一〇)富永徳(昭一三)田代照雄(大一一二)白神健二(一四)大友敏弘(昭一九)大畑稔(昭三七)沢岡良治(昭三七)の諸氏が、次々に現われた。神戸支部からは本間広松(昭八)幹事長も参加していたが、この総会も未だ嘗てない楽しい集いとなった。会員一同揃った頃を見計い、別荘庭園で記念撮影をする。

こゝの会場は昭九、尾崎央男氏(旧姓溝手)の別邸を開放していた

だったのであるが、緑丘人には何時でも使っていたきたい。特に関西方面の支部会合に利用下さい。また家族連れの海水浴にも利用願いたいと親切なおさがりがあった。

今日の出席者には中野先生と特にゆかりのある人々が集ったことも後からの自己紹介で明らかとなり有意義な会合であった。

田代支部長の挨拶にはじまって、猪木幹事長の会員異動報告と東京へ去って行った支部会員渡辺文郎氏(昭九)が必ず次回の中野先生をお連れするという約束が、計らずも今日こゝに実現されたことを喜ぶと挨拶、本日の総会の世話役村岡氏は墓目緑丘編集長と本間神戸支部幹事長参加の経過を報告された。

来賓中野先生は自分は大一一五であるから、先生といわずに今日の仲間一人として別扱いしないように願いたいと挨拶あり、墓目編集長は「緑丘」発刊から今日に至る経過を説明された。

本間氏は昭八でなく、今日は幹事長としての挨拶であるが、やはり昭八会の小委員会の感があると三十周年記念祭の熱海の一夜の物語りをテラリとほめめかす。

ビールの乾杯に続いて自己紹介に入る。他の支部では見られない懐旧自己紹介は村岡氏の人生航路で緑丘

人先輩が、どんなに力になって下さったか、これから微力ながら御協力申上げたいと胸にうき入るような力強い自己紹介、尾崎氏はユーモアたっぷりにブリーズ・セーブ・ミーとマツキンソン先生に及落寸前の込んだ時の物語で一同どっと爆笑する。

岡山支部には高校の先生が四人、そのうち二人の中野ゼミがいる。そして中野先生建国大学在職中、同じく満州で活躍されておった会員が四人もいることが自己紹介で判った。西山英夫氏は中野先生とは三十八年振りの邂逅であり、白神氏は学生時代中野先生宅を訪門して奥様の美しさが、まだ臉に残っているといえ、奥様は先生の点数上げの御手伝で、よく知っておりますよと、若かった時代に帰って語り合う。

本間氏は学生時代黒板に花など書いて結婚初夜の感想を聞いたのは私達のクラスですと、横を向いて話しかけると、先生は奥様に一寸あっちへ行って、くれ、い、でしようかと聴かすまいとする心と、聴きたい心とがパチリと会う。先生はカテゴリーという言葉を使われたが、それから先生は別名カテゴリーであったなど、賑やかな自己紹介が続いたが、新参の三十七年卒沢岡君は今日は日曜でデートであったが、無理して出て



尾崎氏のおてもやん

来た人と新人らしい。同じく大畑君も三井船舶で防衛庁納入の苦心談を語って一まづ紹介を終る。

中野先生持参の加茂鶴と本間氏の肴が配られ、楽しい歓談が続く、尺八上田流の指南、村岡氏の鶴亀が三味線の合奏で余興の幕を切る。

大倉氏のお伊勢詣り、尾崎氏の雪のだるま、墓目氏の晴れて雲間に、と小唄の数々が披露された。カスリの着物に赤いタスキとお腰のいでたち頭は娘さんのカツラで、道具立てよろしく、出て来たのは尾崎氏十八番のおてもやん、手振り、腰のふり、足の運びのそのろまさ、これまた尺八の村岡氏と共に岡山支部名人の双壁である。ムツツリ右門の田代支部長も沖繩民謡を聞かせてくれる。現場仕込か本調子らしい。

若手連中も、元気よくソーラン節や、黒田節、次々と演芸大会は続いた。十時からの総会は賑かなうちに猪木幹事長から母校訪問旅行団の計画発表あり、積立金により三十九年

異動

(大友敏弘記)

栄転

- 平野 治助(昭二〇) 旭川市二ノ八拓殖銀行旭川支店へ
- 忠 善男(昭一六) 東京都中央区日本橋馬喰町一ノ一第一銀行馬喰町支店へ
- 菅原 英信(昭一六) 東京都千代田区大手町一ノ五公庫ビル北海道東北開発公庫へ
- 三村 政治(大一一四) 東京都中央区日本橋二ノ六丸善ビル内本州化学工業株式会社
- 佐藤 良雄(昭三五) 名古屋市中村区広井町三ノ八八大名古屋ビル三菱商事名古屋支社へ
- 武智 鉄郎(昭一三) 北海道拓殖銀行馬喰町支店長から審査部長に
- 稲川 潔(昭一〇) 協和銀行銀座支店長から広島支店長に
- 進藤 彰(昭一一) 名古屋市中区上園町四丁目六(不動産ビル五階)日産化学工業株式会社支店、支店長代理兼総務課長

海外旅行の自由化が近づきました!

どうぞ旅行の御相談を!

海外	国内
旅行	旅行
旅行	旅行
旅行	旅行

IATA 公認代理店、日本航空、全日空、外各社代理店

太平洋観光株式会社

本社 東京都千代田区丸の内2の18 岸本ビル
Tel. (281) 0462・0463・4062・4063・9864・9865

銀座 東京都中央区銀座西3~3 銀座ビル
Tel. (535) 2874・2875・4812

大阪 大阪市南区大宝寺町仲之町52 大仲ビル
Tel. (271) 4166・8044

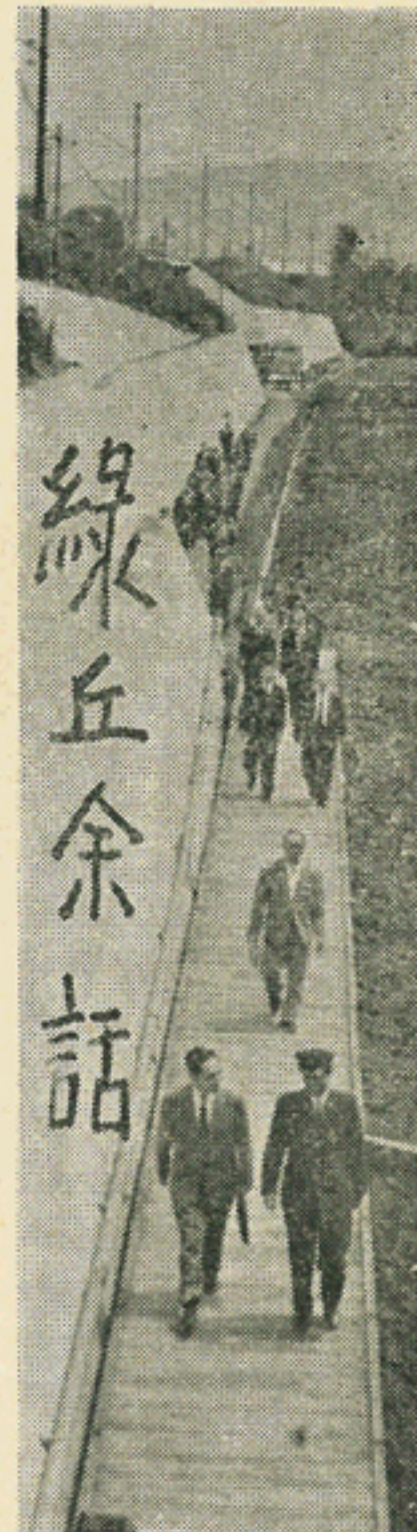
札幌 札幌市北二条西三丁目一 越山ビル
Tel. (4) 7913・0181の内線7071



喫茶

東京に
お出での節は
どうぞお立寄り
下さい

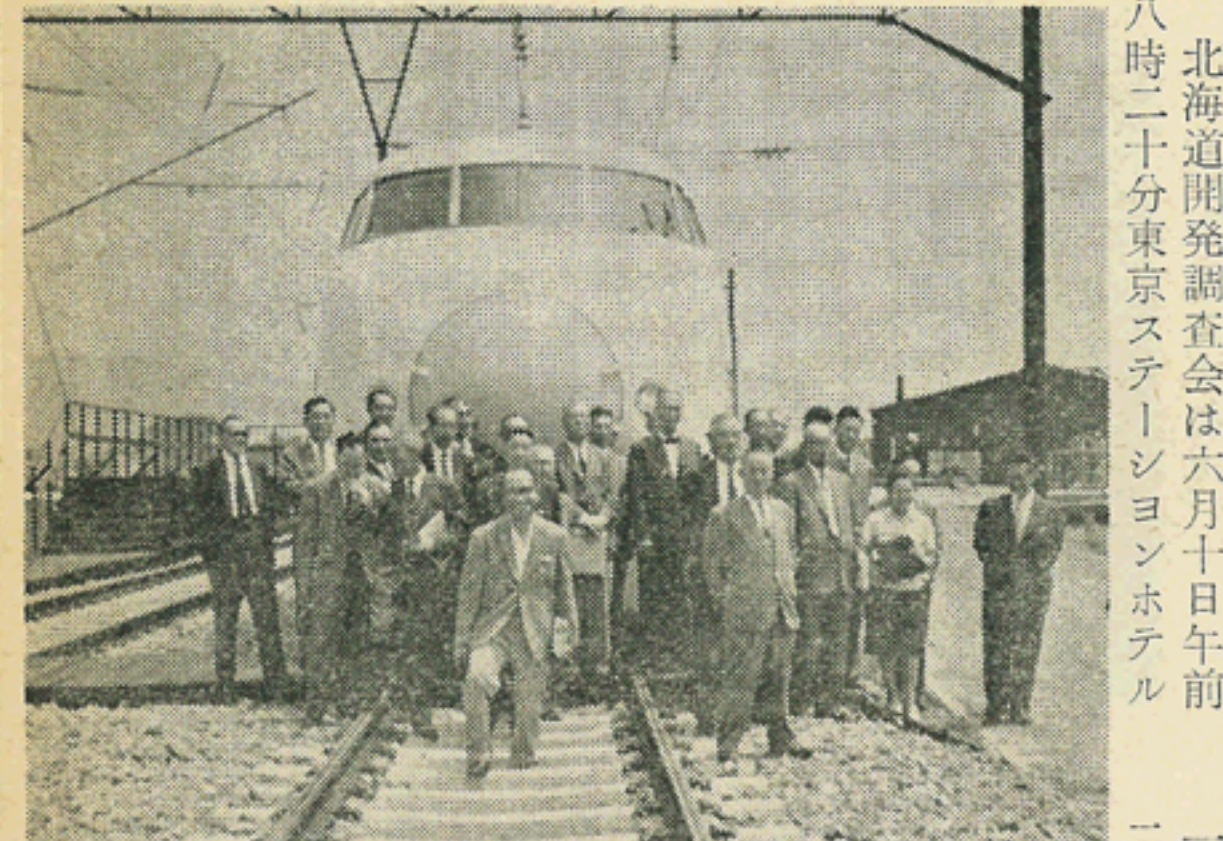
銀座西三ノ三



北海道開発調査会（東京）

第二十八回定例研究会に

東海道新幹線試乗を行う



北海道開発調査会は六月十日午前八時二十分東京ステーションホテル一階喫茶室に会員二十三名集合、第二十八回定例研究会に東海道新幹線夢の超特急の試乗を行った。

雨の六月には珍らしく晴れ上り、東京駅から鴨の宮駅まで湘南電車一等で向う。世話役岡田春夫氏（昭一二）がサンドウィッチ、コーヒ、バナナと朝食を会員一人一人に運んで歩く。鴨の宮駅には佐々木周一、松本義一両氏が一行に加わり、バスで鴨の宮基地に到着。真白いコンクリートの新幹線の上をスマートな夢の超特急が静かに入って来た。試験中のこの超特急の前に一同立って記念撮影を行う。

この車輛のトップには二、三ヶ所血痕がある。恐らく夜の試験に、その光を求めて飛んで来た鳥が突き当たったものであろう。レールは広軌道（一米四三・

五）で一本の長さが一・五〇〇米のロングレールである。ドアが開いて中に入る。試験中であるから、車内通路は配線一杯、三輦目まで進んで一同着席、シートは巾広く三人がけ二人かけの二種類、国鉄高橋運転車輦部長から新幹線あらましの説明を受け、やがて出発の十一時を待つ。特急の倍の速度二〇〇*で突走ると聞いて十一時に十秒前、五秒前二秒前、と車内にアナウンスされ、刻々と出発が迫る、一同固唾を飲んで一瞬声なし、スピードを示すゲージを凝視する。

出発。五〇*、八〇*、一〇〇*とスピードを増した。長さ一、三一米の弁天山トルネルに入る一寸耳を圧迫するものがある。丁度飛行機が上昇する時のように、ま、たく間に抜けて直線コースにかゝる一八〇*、二〇〇*と世界最高のスピードを出す。林も森も如も忽ちにして後ろにすぎさる。相模川にかゝった真白な橋梁をすぎて綾瀬にスピードを降ろして目的の三十七*を走った。

そのま、再び鴨の宮に向う。今度この車輛独特のA・T・C（車内に設けた自動コントロール装置）を使用して停車する試験をかねて出発した。帰りの車中は、や、一同の緊張も解け、楽しく会話する人々や笑いも見えた。無事に鴨の宮に到着これは当然のことであるが、もし線路上に石でもあったら、どうなるだろうと思つたのは自分許りではなかつたようである。本日の緑丘人参加者は左の通りである。

田上 東 大二三	寿原 九 大二八	松本 義一 大二八	小脇 音次 大一一	宮村 太治 大一一	北塚 武久 大一一	大塚 正敬 大一一	高橋 政次郎 大一一	永島 豊次郎 大一一	岡田 栄吉 大一一	高橋 武雄 大一一	小橋 庸三 大一一	佐藤 達良 大一一	武田 正英 大一一	神田 清治 大一一	佐藤 治定 大一一	岡田 春夫 大一一	石川 英三 大一一	藁目 英三 大一一	
昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一	昭一一

紙面の都合もあるので、簡単に北海道開発調査会を御紹介する。目的は北海道経済の総合的調査、研究を通じて、北海道開発の促進を計り、あわせて国民経済の発展に寄与することである。定例研究会は、ほとんど毎月十日の午前八時に朝食会をかねて開催される。会員には緑丘人が多い。第一回例会が三十四年八月であるから、もう四年目、いままでに高崎達之助、唐島基智三、木村藤八郎、伊藤整、与謝野秀（オリオンビック東京大会事務総長）等多数の有名人が交互に出席して話している。岡田春夫氏の話では、もう十二三名会員を増員したいので、緑丘人の参加を希望していると洩されてい

た。御問合せは中央区日本橋通一丁目五番地東海銀行ビル三階佐々木事務所内 北海道開発調査会へ。

新幹線試乗に

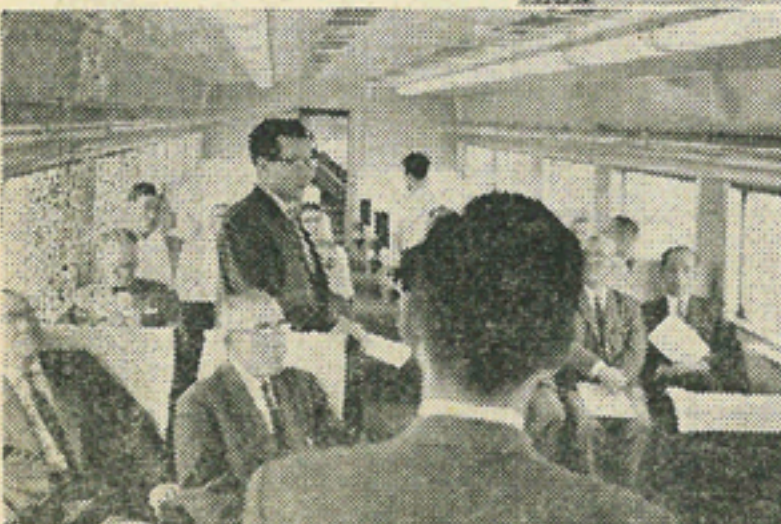
参加して

小貫 武（昭二）



六月十日新幹線試乗のモデル地区を試乗してみた。なにもかも岡田君におんぶして乗せてもらったのに過ぎなかったが、まことに心うれしい晴れやかな試乗であった。新車の優秀な

(右) 試乗に向う
(下) 車中の岡田氏挨拶



る技術的水準は、ことにアメリカ技術陣が「ワンダフル」の連続だったとのことによっても証明されるが、その面に弱い私でも従来の客車の構造と比較して、数々の驚嘆すべき部分、部品が各所に点見された。速力を半減して時速一一〇キロ、これが「こだま」の最大速度ですと高橋国鉄部長さんの説明を聞いたとき、その遅速のいちぢるしさに一驚を覚えた。トンネルと内では耳に軽い圧迫感を受けたが、本運転までにはなお改良、研究を続けて、よりよいものにしたことだった。

同窓の会合は、とかく親しさに馴れて、どこか一、二ヶ所抜けたところがあっても、それはそれなりに、まあまあと認め合おう、しきたりのようなものがあるものだが、常任世話役岡田君の、この種の催しの運行には、まったく非の打ちどころがなく、いつもながら敬服させられる。岡田君のまともさが秘蔵の林さん、三上さんに映じていたり、つくせりの楽しい試乗紀行であった。

日曜以外には試乗を許されないはずなのに、月曜日を可能としてくれたり、国会議員先生が先輩というだけの名において、夫子自らバナナ配給のサーブイスをしてくれたり、いやはや恐縮至極でありました。

この行に佐々木理事長、松本（義一）、田上大先輩等々の御参加、はては大阪支部の墓目幹事長がわざわざ上京、行を伴にし、旺んにしてくれたことは感激一しほのものがあった。

北海道各支部の御協力を期待

岡山支部

母校訪問旅行団を結成

支部交歓旅行を兼ねて

岡山支部は六月二十三日（日）児島市田ノ口尼崎別邸において第八回の総会を開いた。

席上幹事長猪木金人氏から緑丘を去ってから一度も母校を訪問した事のない会員が、ほとんどであり、今回母校訪問旅行団を結成して毎月、旅行費用を積立て三十九年八月頃に北海道旅行を兼ね母校訪問を実現したい。また小樽や札幌の支部とも交歓緑丘会を持ちたいと一同に計かり、拍手をもって決議された。

恐らく今回の決議された母校訪問旅行団の計画は全国でも、はじめての事であり、岡山支部のみならず、青森、から福岡までの各支

部も、またかゝる計画が波及して、懐かしい地獄坂に登らんとする計画が出て来ることであろう。

岡山支部も近く具体案をプリントして会員に配布されるが、近頃の広島でも支部結成と同時にこの問題が検討されて、やがて合同の旅行団に発展されるかも知れぬ。岡山支部は他支部からの申込みを歓迎すると。二十年、或は三十年振りて訪問される緑丘会員に対する道内支部も歓迎パーティーを開いて交歓を願いたいものである。

特に小樽、札幌緑丘会支部は進んで岡山支部（岡山市門田町四二〇猪木金人）と文書による連絡を願います。

京都産業の未来図

昭三一 小田島和夫氏 (日本新薬勤務)

京都経済同友会

記念論文に応募 第一席を獲得

小田島和夫氏 (S.31)は京都経済同友会創立十五周年記念論文募集に応募、多数のなかより選抜せられて第一席を獲得せられた。緑丘会京都支部の幹事役として、何時も世話をされている好青年である。

(論題)

京都市における

産業構造の将来

産業構造規定要因の動態的把握と誘導策の方向

(論文要旨)

一、序—問題意識—

最近の人口増加率および生産所得成長率にみられる京都市の停滞性はその産業構造に問題があるのではなからうか。未来図を単なる希望図ではなく、実現可能性あるものとするためには方策論が重要な意味を有する。

二、産業の発展方向を規定する要因

基本要因は立地条件と需要構造であるが、静態的には需要構造は与件となり、これを一定とすれば立地条件が優位を占めることになる。しかし、動態的には与件である需要構造そのもの(新技術の開発も含めて)が変化し、立地条件とともに産業の立地を決定し産業構造を規定する。従って、立地条件のダイナ

ミックな変動性認識と需要構造の变化方向予測が未来図想定に必須条件となる。

まづ立地条件においては「集積の利益」と「過密の弊害」にみられる Merit & Demerit の相互関係性把握と重要立地因子については戦略要素視する態度が要請される。次に需要構造の変化に対応した産業の選択育成方針としては所得弾力性基準(需要面)と生産性上昇基準(供給面)が第一基準となるが、この外、産業開発と、その経済効果を高め、文化観光都市との調和を図る点から、産業公害、産業観光、輸出各適格基準および高付加価値基準、産業連関効果基準が第二基準として考慮の余地がある。

三、京都市産業構造の特質

産業構成において他の大都市と比較して第二次産業比率が低く(34.4% / 36.9%)、第三次産業比率が高い(35.4% / 31.7%)。また工業構成において繊維工業を中心とした軽工業比率が約65%で、重工業比率が35%と少いことが特色である。主要産業群をみても地場産業としての伝統産業の育成策、観光産業の発展方向、近代産業の中核業種の選定等独自の問題点を内包し対策の必要性に迫られている。

四、重要立地因子の変動と誘導策の方向

重要立地因子として交通事情、用地、用水、労働力、文化水準、産業公害等があげられるが、なかでも交通事情(東海道新幹線、高速道路)は今後のダイナミックな立地条件変動の主役をなすものと考えられ、ま

た労働力は昭和45年頃以降大きな Demerit となる。京都市の土地狭隘性の問題は地域構造的視点の必要性を意味しているが、地域移動の問題が団地化、立体化とともに伝統産業対策の一重要施策面をなしている。

立地条件作りと誘導策としては市当局の隘路面への先行投資と財政投融資の導入が必要であるが、具体的には産業道路の拡充整備、労働力移動策としての産業環境、生活環境整備、観光資源の開発、産業政策としての移輸出対策が必要である。また誘導策の方向として広域的視野に立った地域分業態勢確立の配慮が要請される。

五、京都市産業構造の未来図

多くの文化観光資源を有し、自然地理的に内陸地帯にある京都市の産業は前記諸基準からも内陸型重工業が適している。即ち投資財としては機械工業、消費財としては高級繊維工業、耐久消費財工業である。特に機械工業は近代産業の中核として明日の京都の発展をリードするものであり、観光産業がこれを補完し伝統産業も停滞的ではあるが、調和的に発展していくところに京都産業の未来図がある。このような見地から

六、結

これからの基調は企業主体における「経済的合理性意識」と「地域社会への貢献意識」であり、誘導策主体の「広域経済意識」であろう。

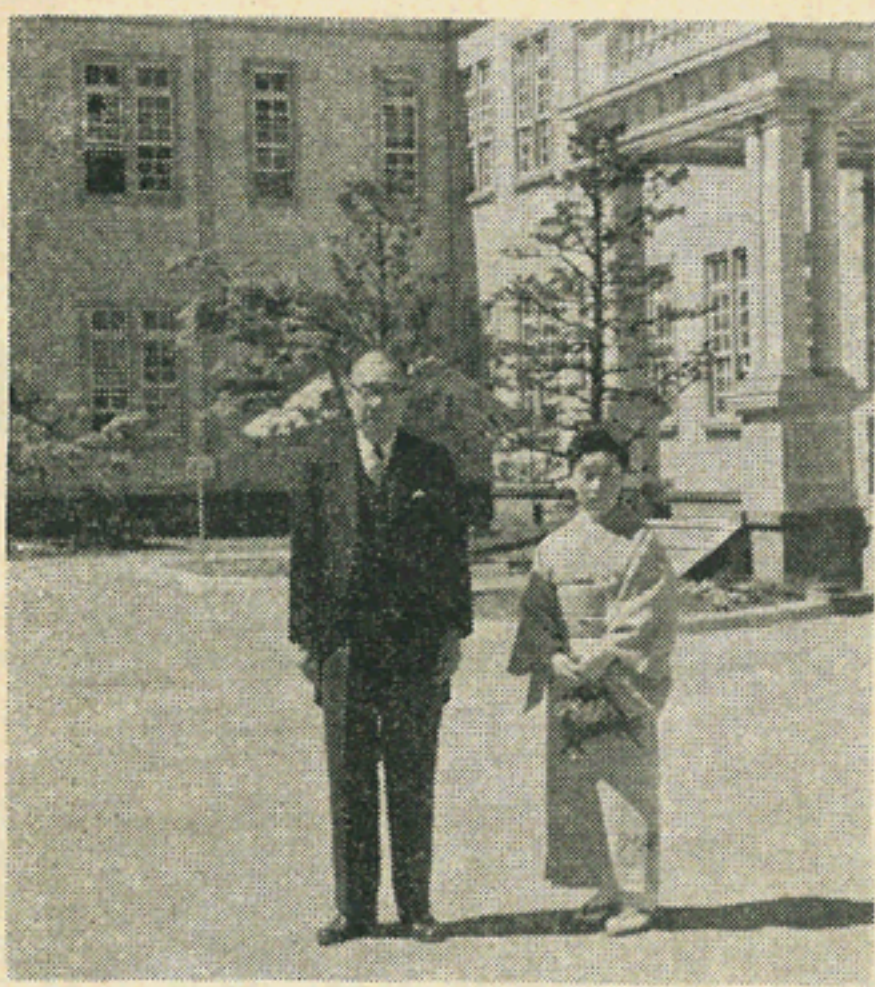
室谷先生のことなど

西川 正己

(大15)

緑丘三十一号に前後して「緑丘会報」第十三号が届いて一挙に両誌を貧り読むの快楽を味わうことが出来て一両日実に愉快な時間を持つことが出来た。中野清一君のいう「緑丘孝行」を我れもしてみんと思っても在任緑丘人の少い当地にあっては何一つこれといった、お役にも立てない。およばずながら藁目さんの緑丘編集にせめてもの一助を捧げることが出来たらと思うだけである。

緑丘会報十三号の学内人事に室谷賢次郎先生が停年退任せられて引き継ぎ、短期大学教授に任命せられた。



室谷先生御夫妻

たということが報せられました。思えば大正十二年四月僕等の緑丘入学のとき、一年生に marketing について講義をせられたのが、先生の母校講師としての第一声であり、大正十四年十一月教授となられ、爾来前後四十有余年母校教授として教壇に立たれた訳で、この意味で僕等のクラスと室谷先生の間には奇しき深いえにしがあった。と申上げても過言ではない。

三年生の選科では Cunninghamham の Western Civilization を教えて頂き、経済史の講座も担当せられました。そのときの思出の一つが自分のいま手許に所持する坂西由蔵先生の「経済生活の歴史の考察」の扉の余白に次のように記されている。

「本書に寄せる自分の感懐は自づと緑丘学園に連なる。坂西由蔵先生の御名を始めて教えられたのは緑丘に学びし当時、それは大正十四年の初夏であった。経済史を三年生の我等に講ぜし室谷賢次郎先生が或日しみじみとした口調で、坂西先生の失明と、その先生を支える夫人の献身を語り、経済史文献の一つとして本書を挙げて推称せられた。

ラティフォンディウム、グランドヘルシヤフト等の語は室谷先生の好んで板書せられし独語であり、古代中世の土地所有を語る術語である。いま本書を手にして緑丘を懐しむと共に室谷教授の温容を偲ぶこと切なるものがある。昭和五年七月十

先生の経済史講義は後に単行本となって出版せられた由承りましたが、いまその書物が手に入ったら、どんなに嬉しいかと思う。

経営金融論や経営経済学概論、商学提要など、続々著作を発表せられた当時に親しく先生の講義に列せられた方々の思出は、更に深くこれらの書物にも連ることであろう。

昭和三十一年夏、卒業以来三十年振り母校を訪ね清水春雄教授に校内を見せて頂いたとき偶然図書館の教官閲覧室で先生に御目にか、ったときは先生の御くしは既に白く、御髭に白いものが交って、三十年の歳月は先生にも、自分にも容赦なく、その印を刻みつけて見せてくれるものだということが切実に感じました。あれから更に七年、停年になられた先生の御くしは、更に白くなられたかも知れない。しかし、先生の御元氣さには一向に変わりはなく、短大教授として今後も母校のために御尽し下さることは誠に有難いことだと存じます。

先生が、もし短大も退かれることになると僕達の御教へを受けた先生は御一人も学校には残られない事になる。思えば大正最後の卒業生である僕等の卒業はまこと遙かな昔になつて了つたものである。来るべき卒業四十周年には何としても一同会して古き交りを温めたいものである。札幌に御住いの中野喜一郎君あたりに御骨折を是非御願ひしたい。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

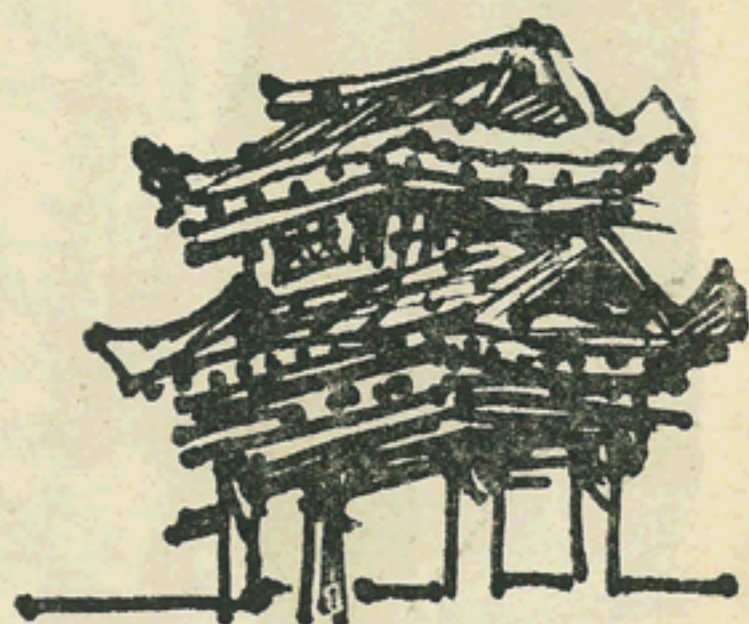
取締役社長 井 薬 政 市
相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪(06)2290・2459・5616 2794番

工場 大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地

出張所 横浜市鶴見区東寺町七二五番地 電話鶴見(04)2303番

見まいかい縄沖



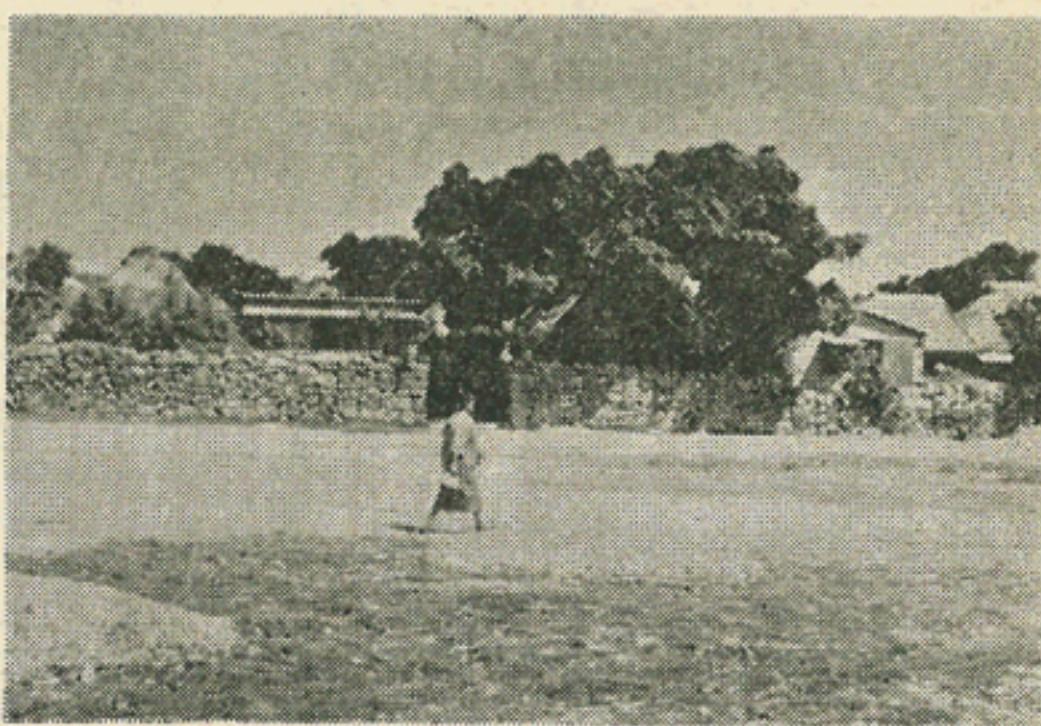
越崎宗一 (大11)

羽田からジェット機で飛べば那覇空港まで一時間四十分であるから沖縄はもはや国外ではない(成程日本の潜在主権だったっけ)

此頃は猫も杓子も沖縄観光で毎日那覇空港へ降りる人が百人余り、月三千人に達し、観光産業収入が第二位だそう、第一位は砂糖である。

観光客受入れも堂にいったもので我々一行の団体もロビー二階に迎えられる冠風番に紺紵の沖縄娘の手で貝のレーを首にかけられ奏でる琉球音楽のメロデーにすっかりいゝ気分になつてしまつた。

バスで首里に向う、戦後ガリオア資金で建てられたという行政ビルの脇を通つてメインストリート国際大通に入ったが、街角の商店屋上に高くあがっているニツカウイスキーの大ネオン看板は我々北海道人には懐しかった。このあたり地価坪千ドル(三十六万円)というから相当なものだ。因みに那覇は首里を合併して人口二十三万、政治、経済、教育文化の中心であることはいうまでもない。ほくは歴史の伝統の沖縄を見たいと思つたのだが、現実の沖縄は戦争で旧沖縄文化は完全に破壊せられ、国宝または重宝に指定せられていた二十いくつかの古典建築は全滅していた。首里の高台城趾にあった古代琉球建築文化の代表「守礼門」も御多聞にもれず焼滅し、現在は古記録によつて復元され、沖縄島民崇拜の的となつてゐる。城趾はわずかに残る石垣に昔を偲ばせてゐるが、いまはこゝに堂々たる鉄筋コンクリートの琉球大学校舎が建ち並び、すぐ下の龍潭池に美しい倒影を投じて



沖縄の石垣

いる。

博物館を見てダンタラ石畳道を下りて紅型染工場を訪れる。紅型(びんがた)とは型紙を切抜いて布地に模様付けをし植物染料で染めた沖縄独特の染物で、工芸的な模様と南方的な生々しい色彩が実に美しく沖縄舞踊の衣裳に見られる。いまは主に壁掛やテーブルセンターの如き土産物をつくつてゐるようだ。ほくは沖縄土産には第一に紅型染を推す。

南部では市街といわず、郡部といわず、人家は殆んどやられて戦後市中には鉄筋建も大分立ち並んでゐるが、ビルとビルの谷間にはバラックも相当目立つ。

夜は那覇会館で沖縄料理に舌鼓をうち蛇皮線伴奏による民踊を見せてもらったが、銀かんざしをさした冠

風番に色鮮やかな衣裳幅広の帯をキリリと前結びにした踊り子の伝統的芸能だけが沖縄情緒を充分堪能させてくれる。

五月一日、メロデーとあつて街の広場には赤旗が賑しく林立し、次から次へと行列がくり出されてゐた。

今日は南部の戦跡めぐりというプログラムだが、歌書よりも軍書にかなし、何とやらで二十万余の戦死者ときいてビツクリした。島を一周する道路は立派でドライブは快的バスガイドは戦歿女学生の姫百合の塔、男子学生の健児之塔や島守の塔、牛島司令官を記念せる黎明之塔(元首相吉田茂筆)、兵民三万をまつる魂魄之塔などを案内してくれたが、魂魄之塔のすぐ脇にある旭川師団約一万の郷土戦死者の北霊碑には僕は特に額づいた。ふと見ると碑前に歌を刻んだ小碑がある。

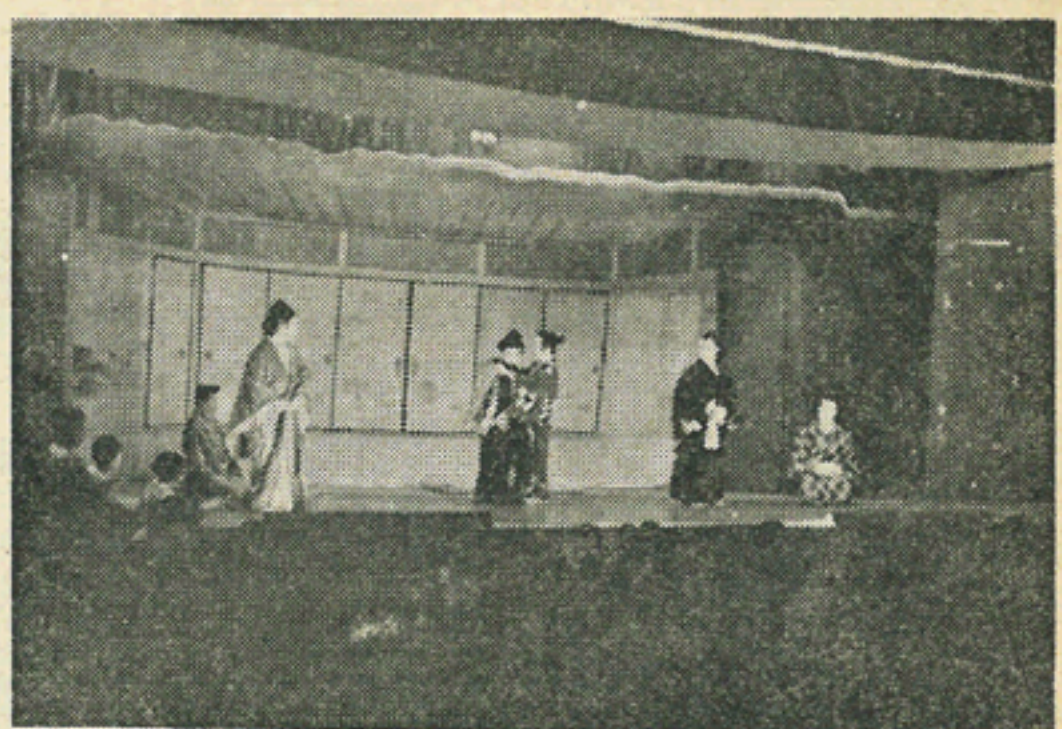
我が立てる臥牛の山は低くして南海は見えず我子還らず

正木 安子
この果に君ある如く思われて春の渚にしばしたらずむ

丹野きみ子

我子我夫を失つた郷土婦人の詠んだものであつた話だが、昭和二十九年北海道の国体に来た沖縄選手団が歓待のお礼に帰つてから立てたものだといふ。とも角北海道人のほくには心温まる話だ。

ところどころ丘の上に家根型の墓が恰も市営住宅の群つてゐるようになんでゐるのが見える。沖縄人は墓を重んじ、墓に金をかける。漆喰と石でかこんだ大きい立派な墓も、バスの窓から時々見られた。赤い屋根瓦



沖縄の芝居

に魔除けの獅子像が鎮座する民家風景に至るところで見られ、鯉轆りが碧空を泳ぎ、矢車がジャンジャンとなつてゐるのをきくと内地にいるような錯覚に陥る。

米人相手の商店街を中心とするコザ市は急激な開け方だが、西部劇のセットを思わせ表通りの看板だけがケバケバしい。土産物店プラザーハウスを素見したが、舶来時計、万年筆、鱗皮製品などが日本とちがって関税物品税がかゝらぬから安い。正札はついてゐるが値切れば、いくらか負けるから必ず値切ることが買物のコツだといふ。しかし、アメリカの兵隊さんは時計は安くて正確なメイトインジャパンの愛用者であるといふから舶来品崇拜の日本人には頂門の一針となる。

退職者の弁

佐藤 信雄

(大一二)

親のすねをかじつて学校に通わせてもらつていた頃を第一の人生、職について月給をもらつていた時代を第二の人生とするならば、退職してから死ぬまでを、第三の人生とよぶことができるかも知れない。私はいま、その第三の人生に入ったところである。

この時期を、どんな風を送るべきか、正直のところ、まだはつきりした見通しはたつてゐない。色んな人から、退職後も何かきまつた仕事をしなければ健康にわるいと言われたい。恩給生活者の平均余命は五年だそうだと教えてくれた人もある。けれども私は、退職した次の日から新しい勤め先へ出かける気にはなれなかつたので、特に口など探しては歩かなかつた。

次の日は北部へ出掛け、名護でオリオンビール工場を見学する、島内唯一のビール工場だそうだが、実に小ぢんまりとした工場で年産三万石というから、札幌工場の十分の一位の規模だ、島産奨励で日本から行くビールには高い関税をかけるそうだから、最近日本からは入り難くなつたという。具志堅社長は蘭のコレクションとして有名で、自宅には全世界から四百種を集めてゐるといふ。

最後の日にシーズンオフだが、明治商事駐在員の御厚意で黒糖工場と分蜜糖工場を案内していただいた。那覇で奇蹟的に助かつたのは、焼物の町壺屋で、小橋川工房を訪れ、沖縄伝統の焼物の製造や製品を見せてもらい若干をお土産に買い込んだ。一寸骨っぽいが仲々味のある民芸品である。

(一九六三、五、三一)

な者にも、こうして声をかけて下さる。その校長先生の御好意は、身にしみて嬉しかつたけれども、いますぐにお受けして、朝の八時から夕方四時、五時まで体をしぼられることは辛かつた。時間講師ならと御返事を教えた。四十年も一つの事に打込んだら、その道のベテランになれそうなのだが、どうひいき目に見ても、そうなつたとは思えない。十年位前から、自分の勉強が足りなかつたのか、勉強の仕方が間違つてゐたのか、それとも英語をものにすることをののか——と時々考へてみるものがあつた。はつきりした結論をえた訳ではないが、努力の不足が一番大きな原因のような気がしてならない。

病床にあつた恩師浜村先生が、こんなことを言われた。「死ぬまでにあつた何冊本が読めるかな。私は時々

この言葉を思い出す。そしてフツとさみしくなる。不敏の私にはあつた何冊も読めないだろう。しかし——とまた考へなかつた。あまりさういふことを気にしないで、自分でできる、またやつてみたいことを、無理しないでやつていけたら、どんなものだろう。それは消極的な生き方に違くないのだが、いま急に積極的になれといわれても、私にはなれそうもない。やつてみたいことは色々ある。しかし欲張つたところで、できそうもないから、なるべくせまい範囲のことを掘り下げてみたい。さし当りは自分のもつとも不得意な英文の勉強にでも力を入れようかと考へてゐる。若い人にまじつて、「英語青年」や「英語研究」などに投書して点数をつけてもらつて喜こんだり、がっかりしたり、ひとさまから、みたらばかかっているかも知れないが、当人は大真面目なのである。よくよくの小人なのである。

(北海道滝川市緑町六一ノ七)

まんびつ五人集

次回

- 西村 小島川 間
- 百太郎 (大八)
- 憲市 (大九)
- 享司 (大一一)
- 篤二郎 (昭一二)
- 誠一 (昭一二)

身辺のこと

郡 菊之助 (名古屋支部)

大阪の谷本さんから、随筆五人集のバトンを授かったことをうれしく思います。同氏は玉の井察時代の同期生で、木村善太郎先生の舎監のもとに、同じカマドの飯を食べ、赤熱したストーヴをかこんで林檎をかじりながら、学修をしたり雑談をしたりしたものです。同氏は岡山商業学校の出身で、同じ学校の出身者である川根氏や東原氏なども一つの寮でした。私たちは一年生のとき、玉の井寮の生活は二年と三年のときだけで、二年のときは広岡氏と同居し、三年のときは辻川蔵氏と同居しました。この辻川という人は、兵庫姫路の出身ですが、水産学校(?)を中途でやめて緑丘に入学された人で、私よりも少しく年令が上であり、親切温厚、何かと世話になりましたが、卒業後大阪商船会社に就職され、前途を嘱望されたのに、数年後に腸チブスか何かで早

逝されたのは、まことに残念です。谷本氏は学生時代から思想的・宗教的傾向の持主で、新渡戸稲造博士の「修養」などを読んで、その内容を私どもに伝えてくれたものです。その谷本氏が、三井物産に就職され、春秋幾星霜、満州国にも渡り、実業界に活躍されましたが、あの謹厳な谷本さんが、酒や煙草のために、ひどく健康を害され、苦勞されたと聞いては頗る意外の感をいただきます。どうぞ健康には特に注意せられ、長命を保って下さい。

私は元来健康なたちではなく、両親も父が五才のとき、母は十一才のときに他界され、茨城県の水戸中学を卒業、東京で浪人生活の後、炭を負うて、いるばる津軽の海を越へ、緑丘に入學したのは、気候風土のうへから申せば一種の冒険でした。それからあらぬか、三年生のとき(大正七年夏)スペイン風流行のときには、はげしい気管支炎を起し、生死の間をさまよひ、木村先生や辻川兄、その他友人諸君には大それた迷惑をかけましたが、寒胃は治ってもその後の健康状態は思わしくならず、不安のまま翌年三月まで経過し、辛うじて卒業証書を授かりましたが、卒業成績は百数十名中の二十四番か

であつたのは、せめてもの慰めでした。就職は渡辺龍聖先生のお取なしで内田商事会社(同郷の先輩内田信也氏が社長)にきまつていたのですが直ちに就職することをやめ、数ヶ月専ら療養生活を送りながら健康の増進につとめました。それから九月になり、東京へ出ましたが、財界の不況で右の内田商事では、もう「人は要らぬ」ということでしたので、新聞広告をあてに探し当てたのが、米田シンガミシン会社の東京支店(有楽町)で、ここには翌年の六月まで在社しました。企業経営上統計学の必要を痛感したのは、この時期で、やがて一つ橋の東京商大で藤本幸太郎先生(日本最初の商学博士)のもとで統計学を専攻したのは、いささか時代に対する先見の明があつたと、いまから顧みて愉快に思う次第です。大正十二年春、新設後三年目の名古屋高商(後の名古屋経専)に迎へられましたのは、渡辺先生はじめ小樽系の先生方が多くおられた関係もありますが、私の東京在学中の勉強が認められた結果でもありまし

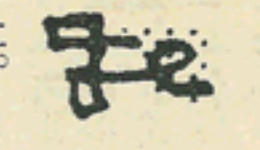
私の名古屋生活も、かれこれ四十

年になります。外国留学、大平洋戦争、空襲、校長事務取扱、終戦、追放、大信紡績入社、追放解除、愛知大学教授就任など、世のなかと同様私の身辺にも可なりの変化がありましたが、六十六才の今日、幸に健康にも恵まれ、学業(統計学、商業学、交通論)の傍ら芸能の方面(私は宝生流、家内は観世流)にも関心を深め、中部日本の観光旅行にも時折出掛け、余生を楽しく有意義に過ごすことに精々努力しておりますから緑丘の皆様どうぞ御安心下さい。なお私の家庭は息子二人で、共に名大経済学部(旧制)を卒業し、長男(定雄)は只今日本興業銀行証券部に勤務中、次男(文雄)は三菱銀行の特別派遣員として、ハワイ島ホノルル市にあるハワイ・ナショナル銀行に出張勤務中であります。

谷本さんの健康談義に引かれて、私も身辺雑記を記しましたところ、すでに予定の紙数に達してしまいました。実は私、渡辺龍聖先生の教育思想並に文化主義について、いつか一文を草すべく心掛けていたのですが、この仕事は事情により後日にゆづります。次は京都の川根(西村)百太郎氏にお願いします。(大正八、愛知大学教授)

馬の脚

奥村 義信 (東京支部)



日頃尊敬する中野清一先生からのバトン、なにをさしおいても何か書かねばならぬ気持ちになりました。

さて母校への想い出であるが、どう考へても、在学中は恥かしい事が余りにも多く、実は自分ながらあきれはてている始末である。それにつけても、ここに書き綴って見たいことは私が外国語演技大会に「馬の脚」として初登場したことである。私は当時支那語科に席をおいていた関係上、他の連中と一緒に、生れて始めて支那芝居をやらせられた。その頃の劇の出し物は先生側で脚本を定め一切の演出法も一々その指示によつた。残念なことに、あのときどんな芝居(劇目)を演じたのか、すっかり忘れていた。ただボンヤリ言ひ得ることは、あの劇は関恩福先生の創作にかかるとして一切の振りつけは石橋哲爾先生の創意による。言わば歌舞伎の寺小屋の段(前場)(むかしよく演じたイタズラ学童の茶番劇)にふさわしいものであつた。例の「へへのもへじ」の大字を顔のまん中に書きなぐり、総員七十八名で一挙、大騒ぎする活劇でもあつたのである。どんな役を誰れが演じたか：想い出せない(こんなときは卒業記念写真帳が手許にあつ

たなら……)と思うばかりである……唯かすかに私の脳裏を去来する人物に加藤省三君がいた。彼のニックネームは幼少の頃から「チャン」であつた。英語もろまかつたが、支那語はなかなかの得意であつた。莫迦に威張り散らす頭目の役柄も実は彼の性格と共にビタリであつた。この芝居の大筋は要するに、彼のカントク下に、われわれ悪童どもが、夫々の個性に応じて妙技を蠢動し始め、大騒動化するのだが、この劇の見せどころであつたのである。

それが、どうした風の吹きまわしか、飛んでもない茶目役(柄)を私が引き受けねばならなくなつた。暴ばれられるだけアバレ狂うトボ返りのシグナ、までやらなければならなかつた。就中、自分ながらナサケなくなり、一時、なんの因果かとガツカリもし、他面自分でもおかしくなつて吹き出してしまつたことは、「拉尿」の場の所演であつた。これが本場に私にとっては終生忘れることの出来ない一番グライシのない「恥」のさらし場であつたのである。

支那人が、どんな風に学苑内で大便をするか? 当時の私としては見ることでもなければ聞いたこともないことであつただけ、それだけ全く閉口したものであつた。出演上なんとしてでもデツチあげねばならぬ言わば人知れぬ「苦心の実演」(?)でもあつたのである。

こんな訳で、この芝居も、どうやら共演者の協力で、みんなの熱演に

よつて無事にチヨンを告げる事が出来、やつとの思いで「まかり通してもらつた」のであつた。

ところどころでこれが奇縁というわけでもあるまいが、私は卒業後スグ支那大陸へ渡る体となつた。頃は大正四年の春、まず山東を振り出しに(日独戦争直後)各地を転々し、ながい「拉尿の旅」を続けたものであつた。

大連では李文権氏(一橋の講師、日本で始めて不如帰を支那語で上演)を中心に、同好の士をあつめて支那劇研究会(十二年間存続)を組織し毎土曜の夜「劇考」(二十五巻)をテキストとして「票友」王小純氏の講義と実演まで研修する機会にめぐまれた。

研究の途上偶然「闊学」(韓世昌による)劇の真面目を知ることが出来たことは私にとっては内心とてもうれしい事柄であつた。と言うのはこの劇が、往年私どもがテンヤワンのやで何が何にやらわからずにやってのけた、あの苦心の芝居と、実は一派相通するものがあつたからである。いまさらながら恩師関恩福先生の学問の深さと、その識見の高かつたことを……そのとき始めて知つたのであつた。「闊学」については日本でも御大典のみぎり、京都で上演された程、由緒ある劇で、雅楽系代表名作の一なのである。

こんなことを考えあわせると私共が悪童どもに扮した、あの問題の学苑内の騒動劇も見ようによつては実は極めて上品な茶番劇でもあつた訳

である。

バトンは私のつね日頃敬愛する臥龍山人・小島憲市氏にわたします。(大正八、最高裁判所図書館)

いわしの子 神沢 重治 (富山支部)

卯月の夜がしらじらと明けそめたので、カーテンを絞ると、浜名湖弁天島の風光が絵のように美しい。

昨夕、湖畔のホテルに投じたのは緑丘を同期に出た学友十六人であつた。同窓の香川大学長大泉行雄博士や、葉隠れ武士の流れをくむ佐賀出身の宮地邦介氏と夜もすがら語り合つと、四十余年前の落葉松にかこまれた寮生活がしのばれる。

朝食のため全員が地階の食堂にあつまり、前夜来の歓談にまた花が咲く。幹事役の新日本紡績社長功刀素重氏夫妻心づくしの珍味が次々はこぼれたが、特に舌にこびたのは、名産チリメンシヤコであつた。これは世上にみる白魚を干したものでなく、くイワシの子で、海苔の香りとともに風味すがたい。

食後車をつらねて湖辺を一周する。新居町(むかしの荒井宿)に閑所がある。箱根や安宅のように跡だけが残っているのではなく、門構えから本屋まで完全に形をとどめているのは全国でここだけだといふ。

鷺津の本興寺は徳川家始祖の帰依深かった古刹で、谷文晁の筆になるフスマ絵がある。境内には蘇鉄が茂り、紅椿が咲きみだれて東海の春はたけなわである。一行のうち足の不自由な岐阜大学の梶川亨司教授が夫人を生ける杖として樹間を逍遙の姿が印象的であった。

瀬戸を渡り、湖北のあたりは茶畑がつづき、夏蜜柑が枝もたわわに実っている。豪雪にたたられた北越とはまったく別天地である。

館山寺で小憩の上、三方カ原を過ぎて浜松にいたる。生まれは遠州浜松在と浄ルリの文句が頭に浮かぶ。天正十二年越中の佐々成政が、雪のサラ峠を越えて、はるばる家康をたずねきて、密議をこらしたとつたえられる、浜松城の天守閣にのぼると、全市が一望のもとにある。日本楽器をはじめ近代器械工業の中心地として時代の脚光を浴び、いまや人口三十五万で静岡をしのぐ。景気測定のバロメーターといわれる芸妓の数も、静岡の百余にたいし浜松は八百を超すとかにて、最近週刊誌の特ダネとなったが、街の様相はかならずしも浮華放縦ではない。

ただ浜松は東京と大阪の真ん中に位するので、単身関西へ赴任している東京族が、週末家族とデートの場によく利用するらしい。国鉄も心得えたもので、東西からの急行を浜松で鉢合わせさせ、帰りはハンカチを振りながらバイバイできるよう上り下りを同時に発車せしめ、なかなか粋をきかせている。

今回は梶川亨司氏へパトンをお渡

まんびつ五人集

しします。
(大一一 北陸代行株式会社)

アメリカ

ヨーロッパの印象

飛塚 誠一

(東京支部)



昨年末二ヶ月程 欧州、南北アメリカを廻って来た。アメリカは今度で三度目だが欧州は初めてである。何れも上司の鞆持なので日程に追はれ忙しい旅であった。異国情緒を味はう為には一人旅をせよ、さて各種の工場を參觀した。業界の指導者とも歓談した。折しもEEC談議の盛んな秋であったが、西独、フランス、イタリア等EEC諸国の目覚ましい発展を現地にみた。老大国英国の悠々迫らざる歩みも眼のあたりにした。南米では、ブラジルとアルゼンチンに足を印した。

その間感心した事が三つある。政治家が国民のために政治していること。公衆道徳の水準の高いこと(従って街も公園も清潔であり、紙屑の散乱して居ることはない)。勤労者が予想外に勤勉で労働能率の高度であること。

イタリアで面白い格言を聞いた。語った人は日本大使館の高官である。イタリアでは最も優秀なのは政治家で、次いで優れているのは実業

家で、最も劣るのは役人であると。いまの閣僚の多くは、前大戦末期、レジスタンスの斗士として、身を以て地下にもぐり烈しい闘いを勝ち取った人達であり、そして敬虔なカソリック信者である。政権の座につきたいまも身を持つること厳に、その生活は質素である。

大家と同じアパートに住み、国民車フイットを自から運転して登庁するといふ。尤もその大家の住むアパートというのが水清き流れと緑濃い森を占領して建てられた。しかもその一つ一つが異なった意匠を持つたさしづめ東京でいうなら、豪華マンションともいふべきものである。

当時外遊中の池田首相は、日本の給与水準はイタリア並みであると新聞記者に語っており、それに抵抗を感ずる同行記者が多かったというのであるが、然りに思はれる。日本では個人や企業が自から果さねばならぬ住居や、その他の生活要素が多すぎるが、欧州では、それを国家が面倒をみる。そのために政府があり政治家がある。結果として単純な貨幣価値の換算比較では想像し得ぬ生活環境の隔絶がある。

公衆道徳とは、己れの欲せざることは人にも強いるなという事から始まる。人の足を踏み、肩が触れれば必ず双方から声をかけて謝する。どちらが早くもなく、遅くもない。パリにもローマにもいゆる愚れん隊はいなかった。到る処で放し飼ひのリスや、小鳥が人を恐れず寄って来た。

勤労者は朝早くから働いている。週五日制が多く、国々においてとられつつあったけれども、週の労働時間は日本よりも多い場合もある。西独の工場では事務系でも朝八時始まりが大部分である。七時というのもあった。

そして、スタッフ級の人達は、職を変はることを意に介しない。アメリカでは優秀な人程勤務先を変へ、その度び毎に待遇を上昇させていくというのは珍しいことでないが、欧州諸国でも、一つ所に永くいるのは才能が無いと買手手がないのだという表現をしているのには驚いた。そして上下の関係が暢やかで、一度、職場を離れると重役も平社員も対等な言葉で話し合っている。個人の尊厳さを認め合うわけである。終身雇制度もよい点があるけれども真の人材は欧米流の方が育ち易いのはあるまいか。

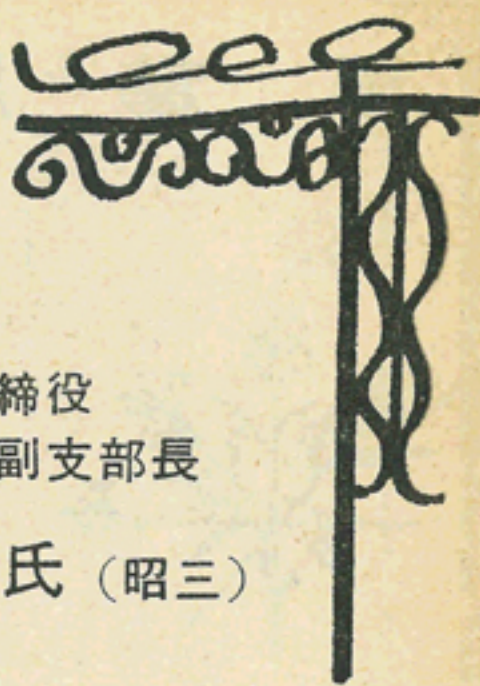
右、レッセ・フェールという緑丘時代の懐かしい言葉を想起させてくれた前回の執筆者三浦正君に贈る。次は三井船舶の竹島篤二郎君に頼む。(昭一四名古屋精糖東京工場長)

諸留誠君が秋葉君からパトンを引き継いだ。奥様から出張中である旨の速達をいただきピッチヒッターとして墓目がパトンを受け継いだ。

次は本間誠一君にお願いします。(本文四頁へ)

緑丘人物譚

(3)



住友銀行常務取締役
緑丘会大阪支部副支部長

滝沢 中氏 (昭三)



外国生活で培われた

母校愛

ニューヨークには三回、十年間、上海に四年、計十四年間にわたりました。ニューヨークの緑丘会支部は、少

海外生活が永かったさうです。佐竹君(日生取締役)とは寮で三年間一緒に、庶務幹事だったことなどで、特に親しく、後年海外生活を送ることになった際、内地の家のことなど随分お世話になりました。

私の母校を大事に思う気持は、外国生活時代に、日本を愛する心を強く培われたものと共通します。経済

問は 山内孝(昭一六後卒)

阪神築港参事・厚生課長
緑丘会大阪支部副幹事長

最近小樽に出張されたさうです。満三十五年振りに、期待して行き小樽の街には失望しました。札幌のあとで行ったこともありましようが、発展していません。昔と同じでしたね。

学校は寄宿舎も立派になり、Language Laboratory の施設など、後輩の学生に「幸福だ、しっかりとやりなさい」と激励しておきました。「実際のな人間を作ろう」という学校の方針には感じ入りました。

小樽時代にはどんな場面で活躍されましたか、現在の趣味との結びつきは

ラグビー、ピンポン部の主将でした。剣道は対寮マッチに出ただけです。当時スポーツをやった事は、いまのゴルフに役立っているでしょうね。ハンディがシングルです。かつて? とんでもない。十八というところですよ(笑)

人数なので集りがよく、会員二十人全員出席というのが例でした。特に堀越、矢島氏、その他日本人クラブ専務理事の堀口氏が中心で、熱心です。

先年加茂、木曾両先生がお出での際は家族同伴のピクニックをやり楽しかったです。

緑丘会神戸支部時代には非常に努力されたさうですが神戸支部には三好一郎氏(大正九年卒)が中心で、非常に熱心にお世話をされていました。私は会計をやったので、そう大した働きはしていませんが、少人数だったので運営がうまくいったのです。もっとも当時は、出席しても金をとられるだけで、その面白いとは思っていませんでした。しかし、同窓会は誰にでも門戸を広くあけて、自由に入れるようにするのがよいですね。また無理に引張っても続かないもので、大阪では非常に熱心な方々が多く、感心しています。

力の面でも、日本が強くなればなるほど、その存在は大きく認められるのです。外国では特にさうです。同様に、母校も発展し、よい卒業生が出れば、それだけ同窓生も向上して行くことを頭においていれば、何かの繋りで、同窓生同志で協力し得る場面は必ずあるものです。

同窓会に出席する事を商売の場と考える人がいても悪くはありません。身辺のことがらでお尋ねしますが長身でいらっしやる事について

母が大きかったのですよ。しかし学歴がものをいう職場に入って、私は当時体重もあり、馬力もあったので、海外に行く機会を得、それが今、外国関係一本に進むことになった一因といえるでしょう。英語の成績もずば抜けて優秀だった訳ではなく、マツキンソンさんの時間はサボリ放題だったのです。

しかし、若いときには与えられた仕事には好き嫌いなしに全力をここんでやって来ました。また、その関係の勉強もよくしました。これは後輩の方の参考になれば幸いです。(六、一八、於住友銀行常務室)

限定版

伴房次郎先生の書翰と追憶



もう一息です
母校の協力により伴先生の年譜入手

「緑丘」の編集、校正、発送が終ると借用の写真をお返しして、次の原稿依頼、申込受付をやっているうちに次の号の編集の時期になってしま...

と。小貫先輩は編集部が多忙を見兼ねて、墓目の代りに原稿募集のプリントを作成し、伴先生に教えを受けた方々に御送附下さった。早速左の方...



緑丘通信
☆東京十日会は十五年になる、第一八回例会は六月十日銀座「炉々」で開催、当番幹事は片桐氏他昭一二...

異動

(一頁よりつづく)

栄転

- 山中 茂(昭三四) 東京都千代田区神田豊島町七皆川ビル東京重機工業株式会社所長
林 文平(六一三) ナチベアリング取締役を引退
高原 一雄(昭二〇) 北陸銀行本店から北陸銀行今里支店へ(大阪市東成区大今里南の町一ノ四六)

住所変更

- 三崎 嘉郎(昭一一) 東京都太田区久々原町三八一
金子平次郎(大六) 宇都宮市一ノ沢町二七二
竹中 正親(昭三一) 西宮市甲子園口二ノ三六二
竹内 富蔵(昭一〇) 富蔵(昭一〇)

- 小樽市緑町二ノ二七 三浦方
高橋 瑞世(昭一一) 札幌市大通西二七丁目
早川 延治(昭一六) 北海道紋別郡遠軽町大通り南二丁目
香木 正雄(昭一六) 横浜市神奈川区七島町八八
大庭 定男 調布市飛田袴町九一五
山口 重男(大九) 東京都世田谷区若林町一〇八
佐藤 富夫(昭二九) 青森市造道字浪打四九四ノ二九五
菅 孝夫(昭八) 室蘭市常盤町一二六
笹原 英信(昭二六後) 東京都練馬区谷原町一ノ三一七
吉川 優幸(昭一一) 東京都北区西ヶ原一丁目三一番地
東京国税局西ヶ原宿舎RB一四一
太田 正幸(昭一六) 小樽市富岡町二ノ四三三菱社宅
宮袋 虎雄(昭四) 調布市深大寺三六〇一
小池 輝男(昭一一) 浦和市領家一、五五四 田代方
福島 祐一(昭三四) 神戸市灘区篠原北町三ノ九
堂ヶ口方
石田 興平() 京都市北区小山上内河原町一三
国弘勲之亮(大一一) 東京都杉並区神明町五四
川崎 法太郎(昭一六) 横浜市鶴見区東寺尾町九三八
山中 茂(昭三四) 東京都北多摩郡国立町青柳字武蔵
野七〇七住宅公団国立団地二ノ二一三号



日立商品特約店

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 サクラバシ日立ショーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪 (361) 8871 番(代表)

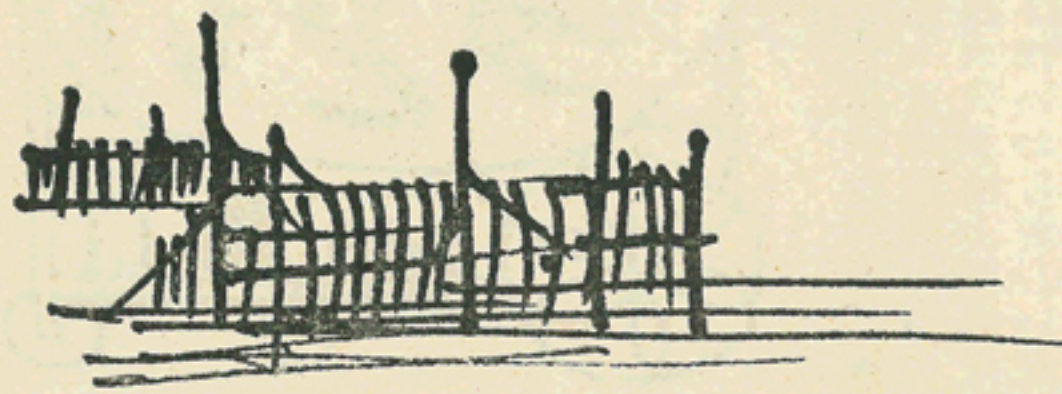
大阪 (361) 4602 番(夜間専用)

緑士会 (大11)

夢去らず

浜名湖旅情

(宮地記)



◎ 弁天島
こゝ弁天島、観光ホテル二階の一室、南をうけて眼下に展らく浜名湖の朝景色。
同行の神沢さんが即座に「栖鳳描く静ひつ景」と絶賛、いみじくも端的に言い表はされたもの。
湖中に散見される小木の林立、名産の海苔採集の柵なるべし。
水鳥の群もあちこちと浮きつ沈みつ、或いは干潟におり立って朝の一刻を楽しんでいる。
今切(大正末期堤防が切れて外洋に連がり、湖口となつたので、この名ありという)を境として湖内は干満の差甚だしく、干潟と見れば数刻にして満々と水を湛へ、満つるかと見れば数刻にして干潟となる。変化の妙また棄て難く行楽の客等しくこの情景に心を奪はれることだらう。

◎ 本興寺
室町時代建立の古刹、国宝本堂と書いてある。厚さ二尺余にも及ぶ萱葺の苔むす木造り、見るからに歴史を物語っている。
境内の老杉、古木もつきつきしく庫裡かとも思う事務所には文晁の画展ある由、時間が無いので見なかつた。
フト吉野回顧の詩を聯想す「古陵の松柏天ビヨウに映ゆ、山寺春を訪ぬれば春寂寥……」
山つゞじが僅かに春を告げるように咲き揃っていた。

◎ 夢の吊橋
浜名湖と猪鼻湖を軋して近代的の吊橋がある。渡れば小高き丘に展望台がある。
一行の老爺連しばし童心に帰る。

眺望絶佳。
◎ 観山寺
浜名湖周遊一番の名所、温泉ありロープウェイあり、土産屋また軒を連ねて行楽客の足をとどめているが老爺連中には別に用事もなさそう。山門に車をとどめて石段を上る。本堂は再建中、資金が集まらぬと見えて、僅か二百円の奉納金も似つかぬ大きな木札に芳名が掲げられている。心ある人大金を奉納せぬかと思う。

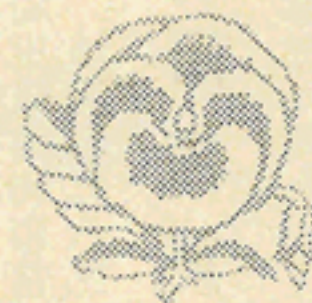
銅色だが中身はセメント造りの観音像が、丈余にそびえて建てられていた。子安の観音様と見奉る。
一礼して奥の院に至れば岩また岩の重畳、日頃ゴルフで鍛えた連中や健康に自信ある者は、その岩に登って湖岸の遠景を眺む。絶景なり。
一行の半数は中腹に足をとどめて引返したとのこと。下車してともに一杯のビールに渴を癒した。

◎ 太田さんの漫談
実は宴席座興の漫談かと思つて聞いていたが、これは太田さんがF銀行の偉い人だった頃の實話との事。語るところ軽妙にして洒脱、牧野周一や西条凡児も速く及ばぬ話し振りに老爺連双頬を崩し、なかには半丈を入れる者もあり、春宵の宴は酒ならずとも興を供へて貰つた。
拙文もって後日の語り草としよう。勿論責任は筆者にある。

「往昔、浜松支店へ出張の朝、某夜心も身をも軽きまゝに部下を伴つて漂然と宿を立ち出て、さるパチンコ店に足を踏み入れたと思召せ。ところが懐に金が無い。
兎やせん角やせん」と迷う程に、吾

等の困った姿がおかしかったと見え傍らに居合せた見ず知らずの妙齡の娘さん達がクスクスと笑いながら御金を貸して進ぜましようと言う。まゝよ旅の恥はかき棄て、渡りに舟と軍資金を借用、ところが件の娘さん達の応援の効果てき面。ジャラジャラと出るは出るは、たちまち戦果の山。
さて、この娘さん達と、この儘別れる事は紳士の体面にかゝわる。第一借りた御金は返さねばならぬ。連れ立ってパンチコ店を出た。途中考へた。この娘さん達は一体何者だろう? 相当人馴れしたところがある。普通の御嬢さんではなさそう。もしかすると音に聞く浜松名物の〇〇ではないかしらん。いやいや、それには下卑なところがない。そこは多少の好奇心も手伝つてこの娘さん達の家を訪れることになつた。
ところが訪れて見て、また不思議通された部屋は奇麗に整頓してあり上等の調度品さえチヤンと揃へられてある。身分については口をカンして語らず、山吹ならで御茶一服差出して、ただ笑いにまぎらすのみ。英雄の心中何んとやらで推して尋ねるも失礼と考へ、雑談一刻にして別れた。むろん借りた御金は返し、戦果もよろしく分配した。
ところがです。翌日土産物を買おうべくデパートに行つたら昨夜の娘さん達が、その売場で美しく働いているではありませんか。奇しくも奇しく。

MEC



MARUKA ENGINEERING CONSULTANT



MEC 新発足のごあいさつ

昨今の経済の動き、国際情勢、さらにお得意先各位のご要望などを併せ考えてまいりますと、いかなる業界におきましても、その経営にあたり現在もっとも必要とされますのは、イノベーション(innovation)であろうと存じます。

すなわち“技術革新”であり“経営効率・生産性の向上”であります。

そこでこのたび、微力ではありますが弊社の専門技術者に、外部からの優秀な技術者の参加を得まして、MEC(マルカ技術コンサルタント)と名付け、右記のメンバーによって発足いたしました。

MECは、みなさまの工場の“技術革新”に、また“生産性向上”に少しでもお役に立ちたいと念願して企画され結成されたものでございます。

わたくしどもの専門技術が、いささかなりともみなさまにご奉仕できれば、光栄と存じます。

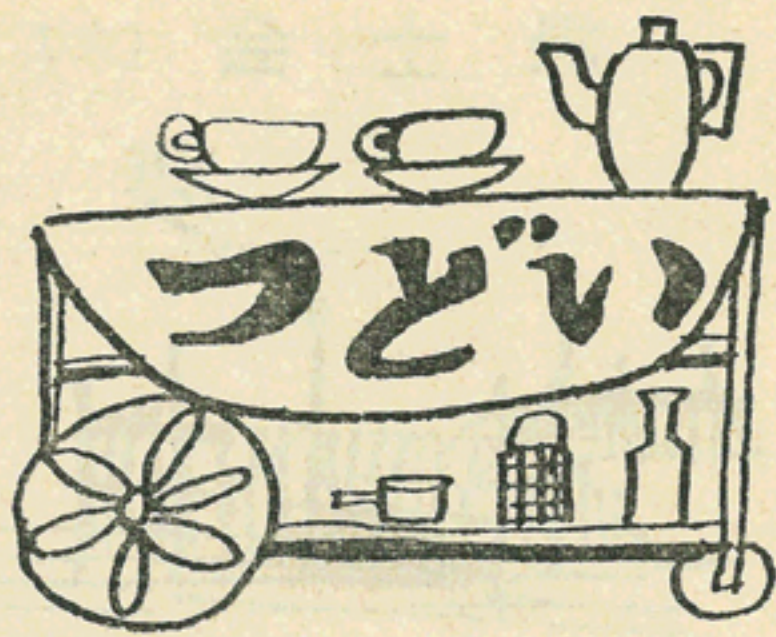
MECの技術スタッフ

工作機械	切削 研磨 加納 光一 幸田 孝正 専用 機 岡田 安雄 プレス 織田 重稔
精密機器	軸 受 辻 信夫 工 具 牧野 正夫 機 器 米山 栄吉 鑄 造 栗原 幹雄
建設機械	杭 打 杭 拔 機 泉 年明 道 路 機 橋本 健治 掘 削 機 伊藤 幸昭 クレーン作業機 吉崎 三郎 幸谷 圭蔵
運搬荷役機械	電 氣 車 丹羽 山治 フォークリフト 丹羽 山治 クレーン 杉田 清 中谷 寛 コンベヤー 戸田 昭 江口辰三郎
化工機械	ボ イ ラ 水森 繁夫 化 工 機 右田 芳郎 集 塵 装 置 右田 芳郎
産業機械	自動包装機 高橋 仁 自動制御機器 今井孝四郎 電子機器 久島 諒造 油圧装置 弦本 克己 加藤 錦吾
建築設備	空 気 調 整 矢野 義雄 電 気 設 備 山田伊之松 給排水設備 鈴木 為行

機械の専門商社

丸嘉機械株式会社

本 社	大阪市 東区 豊後町 41 TEL 大阪0470271~0279・1291 6214・6385・5343
東京支店	東京都 中央区 銀座東6丁目7 (木挽館新館ビル) TEL 東京(542) 2667~9
名古屋出張所	名古屋市 東区 駿河町3丁目2 (イースタンビル北館) TEL 名古屋(97) 9684(直通) 8561~5
岡山出張所	岡山市 中之町 32(山陽ビル4階) TEL 岡山(4) 0634



四十余年の古き伝統を誇り、幾多の俊英を世に送ったわが正気寮は、三十一年六月の大火災により食堂を改築しての住み住みから新しい鉄筋造りの智明寮に吸収される事になり三十四年度新入寮生を最後に正気寮生は絶たれた。

寮の卒コンは毎年続いて来た。小樽の街、小樽の港を一望の下に見渡せる山あいの古ぼけた寮で、学び、そして語り過ぎた夢多き学生生活を終えた者にとって卒業式よりも、むしろ卒コンを懐しく想い出す者の方が多いのではなからうか。

昨年は地獄坂中腹の五楽園で数少い三十四年度入寮生が音頭をとり、札幌近辺の先輩を交え、卒業生の門出を祝ったのに今年は卒業生を送る正気寮生は誰れも居ない。春爛漫の桜花で始まる寮歌、あるいは、また記念寮歌、卒業生、現寮生、寮監、先輩と肩を組んでのストーム、彼らは歌って足を踏みならして卒業して行きたいだろう。

正気寮卒業コンパの記

(山崎記)



たまたま玉井先生が神田（昭三六）の勤務先を訪ねられ、是非先輩でコンパの企画を、と話があり、最後の卒コンだけに沢山の先輩の参加を希望し、先生から在札各期の世話人の名簿を拝借、第一回の準備会は石田屋で日西（昭三〇）中本（旧姓林、昭三〇）上館（昭三二）山崎（昭三二）松田（昭三五）神田（昭三六）の面々が幹事になる。三月九日、場所は札幌も狸小路のえぞ御殿を定め、佐々木（昭三六）の流麗な文章で案内状の作成にかゝる。

準備も軌道にのった頃、神田は、三月十日の組合大会のため、後事を中本、松田に託して横浜出張、詰襟金ボタンの連中と肩を組んで歌う最後のチャンスを選んだ神田の心境は察するに余りある。

さて愈々当日、主賓の卒業生は夫々めでたく有力会社に内定し、希望に胸をふくらせ晴々とした面持で到着。数えて十二名、玉井先生はじめ賭の吉田、築瀬のおじさん、おぼさん、そして先輩三十名ばかりが続々とつめかけ一堂に会した。まず玉井先生より卒業生に対して慈父の如く胸を打つお祝いの言葉があり、岡部（昭一九）白井（昭二〇）両先輩より、お祝いと暖い励ましの言葉、卒業生代表から涙にむせぶ感激の謝辞、誓いがあつて乾杯の後、宴に入る。祝電の披露、寄贈御礼をマイクで

発表し、かくも遠方から、この会に多数の先輩が激励と援助を与えて下さった事に一同深く感激した。宴もたけなわ、マイクも廻る。ユ一モアに富んだ自己紹介、失敗談、余興に、さながらあの寮の食堂でコンパを開いているかのような錯覚に陥る。同じ釜の飯を食った先輩、後輩の尽きぬ思い出話や出席出来ない寮生の消息に時の経つのも忘れ、最後に全員で正気寮々歌、記念寮歌校歌を、えぞ御殿を揺るがすような蜜声で張り上げて歌い卒業生、先生はじめ正気寮出身者の幸多からん事を祝福して閉会した。外に出れば中無限なく晴れ渡り、北斗の星の下、誰れともなく円陣を組み怒声天にも届けとストームに情熱を発散した。

最後に全国各地に活躍されている先輩諸兄にお願いがある。我々の生活した正気寮の建物は最早なく、土堤の芝生と前庭とが僅かに、その面影を残すのみとなった。しかし、これで正気寮の歴史は終わったのではない。永い伝統によって培われた正気寮の精神はいまもなお我々の胸のうちに生きています。今回の卒コンを開いて痛切に感じた事は寮生名簿の不備な事である。幸い左記の中本、雀部（昭三六）が、この難事を引受けてくれたので是非正気寮出身の諸兄は道内は勿論内地まで地区毎または卒業年次単位で九月末までに左記へ御連絡願ひ度い。

札幌市南一条西三丁目
今井金商株式会社 中本毅彦宛
氏名、卒業年度、勤務先、同所在地、自宅を明記の上

卒業25周年を記念し 夫人同伴全国大会を開く

昭和38年5月
於 静岡県伊豆・網代

— 大会委員長 室谷邦雄 記 —

昭和十三年会



昭和十三年に緑丘を巣立った同期生は今年が丁度卒業二十五周年に当るので、東京在住の幹事が中心となり、去る五月十八日および十九日の両日、静岡県伊豆

網代温泉ホテルで、夫人同伴全国大会を開催した。参加者は同期生四〇名夫人、家族を加えれば五四名の多数に上り、うち夫人同伴一組と、この種会合には珍しく大人数の盛大な大会であった。卒業以来二十五年、初めて顔を合せるものがなん組もあつて、終始感激的な場面が展開された。四〇才の後半にはいった年令はまさに働き盛り、それぞれ大きな自信と責任をもつて社会的に活動している連中であるが、この日だけは文字どおり、二十五年前の学生時代に逆もどり、三年間の緑丘生活の思い出にふけつた。

寮生活、試験、学生時代の若さ、誇りさんげ、苦惱、喜び、悲しみ、いろいろの思い出が交錯してとどまるところを知らなかった。

昭和十三年の卒業生は全員二七名であつたが、現在消息の判っているのは二〇八名、物故者を除けば一五五名である。一九名の人が残念ながら幹事のことろで消息不明となつている。この人達には今回の全国大会の案内を差上げる事ができなかった。また不幸にしてこの二十五周年に中途にして倒れた物故者五三名（うち戦病死一九名）があつたことは甚だ残念でならない。

今回の全国大会は卒業以来初めての計画であつたが、三十周年にも是非同じような行事を持ちたいという事になり、そのための準備を今から考えておくという決議がなされ、十三年会の意気盛んなところが示された。

今回の大会の計画は三十八年一月十日東京同期会開催の際、本年は卒業二十五周年に当るので、全国に呼びかけて、記念全国大会を開いてはどうかとの動議が出され、本年の東京幹事の当番に当たつた

小川愛策（王子製紙）高野憲一郎（丸島機械）の両君と室谷（日銀）が世話役となり、北海道、大阪在住の幹事などと連絡をとって実現の運びとなつたものである。大会開催までに旅館の手配、同期生への連絡、資金的援助などについて小田、鎌谷、若山、山家、大滝の諸君が協力してくれたことを心から感謝する。

さて計画をたてたものの果して何人参加してくれるかが幹事の最も心配したところであつた。旧婚旅行をかねて夫人同伴大歓迎ということにしたが、主人どもの平素の行状にあきれて同伴をこぼれはしないか、働き盛りの年代のため仕事を離れることができるだろうか、みんな三〇名も集ればまづ大成功だろう、などと話し合っていたが、予想は嬉しいも大きくはずれ、当日の参加者は五四名の多数に上り幹事をこの上なく喜ばせてくれた。

なお予め参加の申込をしていたが当日急用で参加できなかった人が二名いたので、これらの人達を加えれば、六六名に達し、同期生の約四割がこの大会に出席できる状態になつていたわけで、大変心強い次第である。

次に大会当日の模様をお伝えしよう。「五月十八日（土）午後四時三〇分、網代温泉ホテル集合」という通知であつたが、この日待ちきれないで前日から来ていたという某君のようなのを例外にしても、みんなの顔を少しも早く見たいという事で、午前中に来ている組が相当あつた。二時から三時にかけて続々と同期生が集り、この頃から旅館の玄関は緑丘色に塗りつぶされてしまった。

幹事持参の校歌のレコードが旅館中に鳴りわたり、いやが上にも雰囲気盛り上つてきた。あちらこちらでヤアヤアの挨拶がとりかわされ、一瞬名前と顔が一致しないでもどよう風景も見られたが、忽ち昔の面影を見出し、握手握手の光

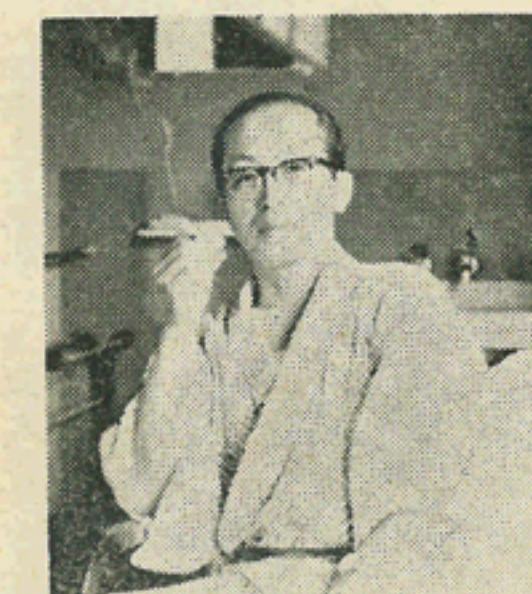


札幌同期会の名世話役 賀川唯司君 (中央)



ゴルフでいよいよ元気な 松ヶ野寿夫君 (右)

夜九時近く懇親会を閉じたが、興奮は消えることなく誰一人会場を立ち去ろうとはしなかった。散会後も誰いともなく大部分のものが一室に集まり、ふとんの上で夜遅くまで語り合っていたが、よくもまあ一話がつきないものだと思心した。幹事持参の卒業記念アルバムを見て思い出は次から次へと広がり、寝る時間も惜しくらいであった。



青森県の名士木幡清再君

今回の全国大会開催を機会に昭和十三年会全員の名簿を作成したので、何れお送りするが間違っていたり、その後変更があったりしたら連絡本部(東京都中央区入船町三の三三三)までお知らせ願いたい。また次の諸君の消息をご存知の方は是非ご連絡願いたい。



関西代表若山永太郎の迷祝辞(夫人方のためになる話)



頭は大正13年卒なみの 高杉隆平君



ゼニトルマン・デレクター 会垣英雄君

阿部光義。秋山益夫。平田一郎。伊藤義雄。川越泰一。小林弁太郎。小峰彰。幹晃一。守野幸夫。本橋芳郎。西内武雄。奥保。大沼恵五。沢田次二。城川昇。杉本武邦。高橋吉郎。田中六三郎。山本亀雄。以上

卒業二十五周年

全国大会に参加して

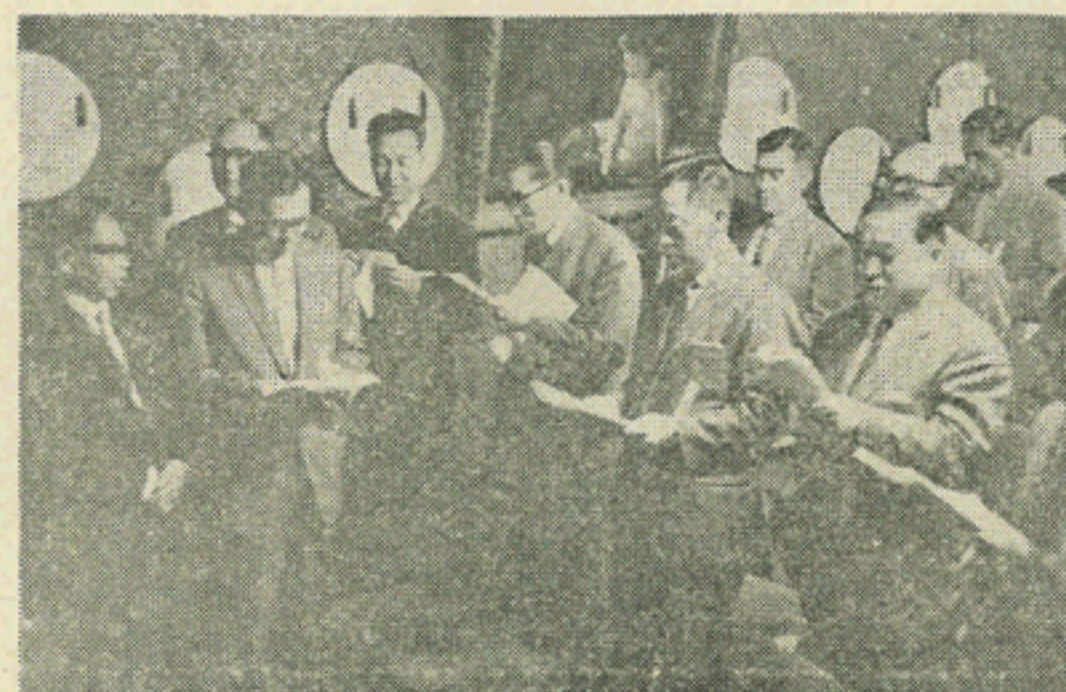
—木村 実—記

数日来しとと梅雨模様が続いた鬱陶しい天気も、この日五月十八日はからりと晴れて、久し振りに仰ぎ見る太陽の顔も、緑丘を築立って二十五周年目に相会する今日の全国大会を祝福することく輝やき満ちている。

会社を早退して川崎駅より伊東行の電車に乗り込んだが、折柄の行楽シーズンしかも土曜日の午後とあって超満員、目的の網代駅まで立通しで約二時間を頑張ったが、此の間本日の会に出席を予定される面々の名簿を見ながら、一人一人の顔を思い浮べていた。特に卒業以来一度も会っていない名前がぶっかけて一体どんな風に変っているだろうか、会ってすぐに分るだろうか等と色々と考えて早くも心は会場に馳せとんでいる。時には名前からだけではどうしても顔を思い出せない人もいる。早く会ってこの人の顔を心に焼き付けてしまいたい、心は焦るばかりである。集合時間より相当早く会場の網代温泉ホテルにいが、すでに幹事の諸兄は部屋割其の他を済ませて、会員の集合を待つばかりとなっていた。その内に続々と駆けてくる。はるばる北海道から奥様御同伴で来る人、九州からはせ参する人、関西地区、東北地方

景にはや変りする有様であった。当日の出席者は次の諸君である。(〇印は夫人同伴者)

- (北海道地方) 五名
(関西地方) 六名
(関東地方) 二四名
(青塚寛二(不二アスベスト工業)
石垣次郎(三菱商事) 今井章人(東和建設) 小川愛策(王子製紙) 大野陽之助(富士倉庫運輸)
(大滝正八(計理士) 太田正雄(三井物産) 金垣英雄(太平工業) 小田乾三(日本交通公社) 木村実(東京芝浦電気) 窪田多々男(三菱鉱業) 篠原守(野村証券投信販売) 関根鏡郎(公認会計士) 高野憲一郎(丸嘉機械) 松ヶ野寿夫(和田製糖) 三橋三郎(王子製紙) 皆川孝平(京橋海運)
(室谷邦雄(日銀) 村田謙也(日銀)
(藤城敏雄(大成建設)
(福田次助(東京舗装工業) 柳川憲夫(三井生命) 渡辺正則(日本興業銀行)
(竹屋政雄(和光商會)
(其他の地方)
鈴木啓介(豊橋公認会計士)
(齊藤大蔵(栃木県、肥料商) 高杉隆平(旧姓仲)(新潟、高杉商店) 野沢義人(久留米、野沢食品工業) 木幡清甫(青森県、八戸ガス)



先づ一同神妙に校歌合唱(昼の部)

出が各人の頭の中にそれそれ鮮かによみがえったことであろう。ここに改めて冥福を祈りたい。次で各人の自己紹介を簡単に言い、鎌谷君がもつともらしく祝詞をのべ、議事にはいった。次の三件が提案されたが、文字どおり満場一致で可決され、最後に校歌を合唱して五時三十分無事第一部の全国大会を終了し、六時三十分から始ま

全国大会は、同期生だけの会合(昼の部と)家族を交えての懇親会(夜の部)の二部に分けて行われたが、まづ第一部の同期生だけの会合の様子についてお伝えする。

先づ最初に本大会の委員長を仰せつかった小生(案合)から開会の御あいさつを申し上げ引続き、小川幹事の経過報告があつて、高野幹事の発声で物故会員に對する黙禱が行われたが、この間本日の会合に出席できなかった物故会員の思い

る第二部の懇親会を待ちうけることになつた。今回の議決事項は出席できなかった方にも是非協力方お願いしたのでよろしく願いたい。

(1) 昭和四十三年は卒業三十周年に当るので、今回と同じように全国大会を開催すること。

(2) 三十周年の全国大会準備の事務費(名簿作成、連絡通信費等)として会員一人当たり一千元の拠出を行うこと。(今回出席の方には会場でそれぞれ頂きました。出席できなかった方は折に東京在住幹事にお届け下さい)

(3) 連絡本部を設け会員の住所変更、その他身辺に異動があつた場合は必ず本部に報告して貰うこととする。連絡本部は大滝正八君東京都中央区入船町一の一三)にお願ひすること。

さて六時三十分からは家族を交えての待望の懇親会。酔っぱらって座が乱れないうちという幹事の心配もあつて、先づ最初に記念撮影を行った。家族同伴優先ということで前の方に坐つて貰つたのが寛のような写真。このようにもつともらしく貫録のある顔付が、四、五分後には小樽時代のヤンチャまる出しに変わるのだから同期生同志は楽しいというものだ。

鈴木(啓) 松ヶ野、木幡の三君がこの時間の間に合わず、代返がきかないのでこの写真に加われなかつたのは残念であつた。

次いで高野幹事が進行係になり、木村(実)君の音頭で乾杯を行った後、若山君が夜の部の祝詞をのべることになつたが、彼独特の「カアちゃんを大事にして。長生きしてもらい、そして自分もともども長生きしなくては損であるワイ談」夫人方から大要評判がよかったようである。この頃からの空気がグッとよくなり、幹事が少い会費でやりくりした芸者の入場とともに、お互の話し

何時はともなく発展して行つた。舞台での余興を用意していたが、二十五年間にわたって積りに積つた話に身が入り余興どころではなく、五六人づつ車坐になつて、苦さんはじめ先生方の話、地獄坂のこと、寮生活、外語劇、北大定期戦、山上グラウンド、外人教師、十八番、五百番、公園通り、古文字書店、トッチャンボーイ、お花ちゃん、低空飛行、妙見川、待待生、スキー、支那事変、教練、汽車通学、等々話がつきまわるところなく、余興係は全く失業の感を呈したのには喜ぶべきことか、悲しむべきことか。

この間奥さん連中は第一部の全国大会の合同を利用してお互に自己紹介して知り合いになつていた関係と主人連中の親しさに影響されて、親密になりすっきりその場の雰囲気にとけ込み、われわれ以上に楽しんでくれたのは意外の収穫であつた。お互に顔を合せたことには名前前は聞くことがあるというので、「初めて会つたような気がしない」といつていた奥さんもいたが、そんなものかも知れない。「三十周年にはどんなことがあつても、また参加します。主人が来なくても、私一人で来ます」といつて張り切つていた奥さんもいた。「主人と二人で旅行に出たのが結婚以来二度目のことですよ」と幹事に感謝を捧げてくれた奥さんもいた。「こんなキツカケを時々つくつて下さい」という奥さんが多かつた。これだけでも今回の全国大会は意味があつたように思われる。

それぞれ二十五年間の追憶はつきるところを知らない。この辺で寮歌でも歌おうということになり、寮別にドラ音が飛び出して来た。「栄光今や……」「一つとでたワイのヨサホイノホイ……」「……」残念ならまたコンシエ……」などが寮歌とともに歌われ、夜の更けるのを知らないという有様であつた。最後に幹事の閉会のあいさつがあり、

等からも続々と集って、定刻には殆んど予定者の大部分が集った様だ。顔を見て名乗り合えばたちまち二十五年前に溯って、紅顔の美青年時代の俤が髣髴としてくる。

一声「ヤァー」というだけで、もう何もかにも一切のわだかまりがすっかりとけ去ってしまう。同窓でなければ味わえない心境だ。やがて定刻より少し遅れて一階ホールに集合、愈々出席者全員顔を揃えての全国大会が始まった。

物故会員五十三名ときいて本日参会した四十余名の一員として参加できた幸せをしみじみと味わう。いま更のごとく過ぎこし二十五年の波瀾が如何に大きかったかを思い廻らすのである。日支事変のさ中に卒業してノモン事件、大東亜戦争、終戦後の混乱、最近十年の急速度の経済復興、と実にめまぐるしい四分の一世紀であった。同窓の殆んど全員といっている程、人生の最も華やかなるべき青春時代を軍隊に身も心も捧げつくしたてある。そして不運にも戦死あるいは戦病死された同僚の名前を名簿に見るとき惜しい人を死なせたものだ、と誠に残念でならない。物故会員に一分間の黙禱を捧げながら、亡くなられたあの人の人の面影を脳裡に刻み込んでいた。

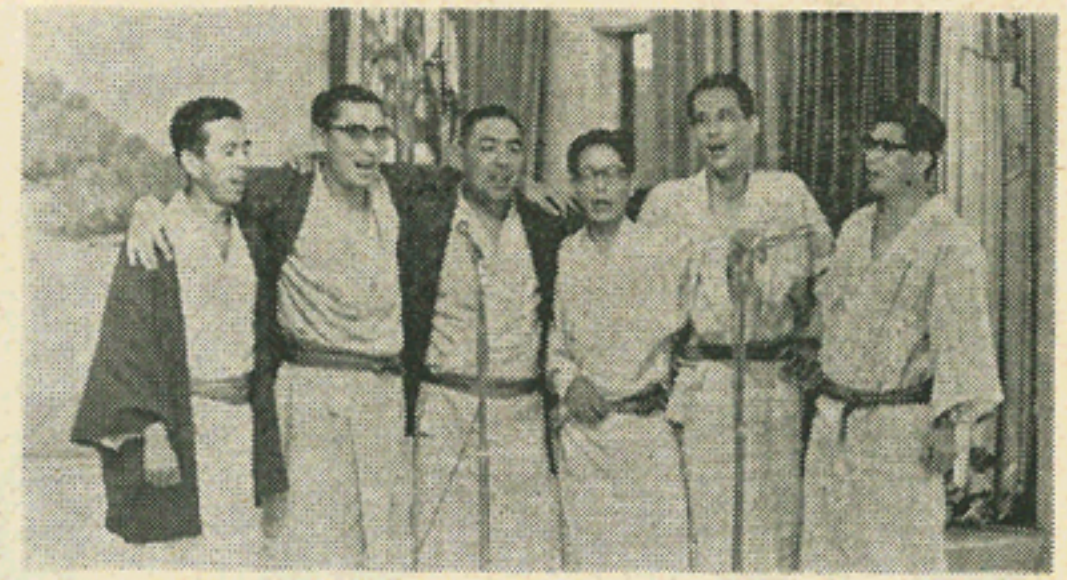
恐らく出席者全員皆同じ思いで黙禱を捧げたことであろう。

出席者の自己紹介に際しては二十五年前教室で教師に指されて答弁するときのあの純情そのものの俤がどの顔にも現われていて、懐しさがこみあげてくるのをどうすることもできなかった。奥様連れ

の諸君も皆浴衣に着更えて大宴会場の舞台を背景に先ず記念撮影。御同伴者を最前列にしてお二人づつ仲良くお並び頂き本日のチョンガは後からこれを羨ましげに眺めるという風情で撮影も無事終了し愈々大宴会の開幕となる。

一斉に乾杯が終るや否や、早くも腹を切った奔流のごとく盃を交わしつつ懐旧の情止みがたき面々が、二十五年振り語り合う声々は広い会場一杯に充ち溢れて、関西地方代表の若山君の祝辞も、ともすれば聞えない位となる。教練で鍛えた同君の声、之を更にマイクで拡大した大きな声も消される程の騒然さとなった。地元網代のキレイどころの踊りも、話すことに夢中になっている面々には殆ど眼に入らない様子である。盃を重ね、酔いのまわるにつれて益々縦横に入れ乱れ、何時果てるとも知れない交歓の場となった。一人一人と心ゆくまで語り合いたい気持は充滿していくが時間があっても足りないというのが皆の本当の気持であろう。

司会者の指名により各寮出身者が寮歌を唄うことになったが、正規の寮歌なるものはど忘れしたのか、応援歌を合唱するものもあり、数え唄を手拍子よろしく歌うものもあり、宴は益々高潮してゆく。ついに鬱勃たる青春の焰は燃え上って全員腕を組みあって『木っ葉微塵に打ち破り……』と踊り狂う仕儀と相成った。この踊りの輪の中にビールのシャワーを浴びせるものも出てきて、正に落花狼藉宴も遂に終りを告げざるを得ない段階となった。司会者の閉会宣言で各自割当てら



進軍歌を歌う第1寮のモサ連 (左より三人目 室蘭の時間 米光徳蔵君)



第2寮出身者の合唱 (左より三人目 青塚寛二君)

り合って漸く深い眠りについたのである。翌朝は九時に朝食を共にし、名残りを惜しみながら『螢の光』を合唱して懐しく楽しかった二十五年全国大会のフィナーレとなったのである。

本当に楽しい集いであった。波瀾の二十五年を好運にも生きのびて、旧友と語り合う機会を与えられた喜びをしみじみと味わった意義深い会であった。最後に幹事諸兄の御労苦に対し厚く感謝の意を表する次第である。

出席者各位の感想

(到着順)

木村 章 三

浮き世のあちこちで年輪を同じ数だけ重ねて……集まって見るとやはり小樽の顔だ。安心のおける顔だ。日本のどこでも通用し、世界のどこでも愛される顔だ。そして会って見ると二十五年も別れていたことを忘れてしまう奴らばかりだ。長生きをするのはこういう人種にきまっている。

齊藤 大蔵

二十五年も一っ飛び、心は遂に緑丘に戻る。古きよき時代を充分に楽しむ。

大滝 正八

会いし時ツインテファイブイザブゴウの友の顔を々々唯懐しむ。

室谷 夫人

皆様方のすっかり昔にかえり語り合う様子は誠に心温まる光景で御座います。次の機会が待たれます。

高杉 隆平

二十五年間の空白が、一瞬にして埋ま

る緑丘生活三ヶ年の意義深さを痛感しました。

山家 利典

地獄坂での同期生会すること五十名、この次は三十年の極楽郷を楽しむに。

藤城 敏雄

家内同伴参加出来た幸福を心から味わい、亡き旧友の冥福を祈ります。

藤城 夫人

私達も女学生に還ってあの様な会を持ってたらと思う程素晴らしい会でした。次回もふるって奥様方の御出席の程を。

志摩 角美

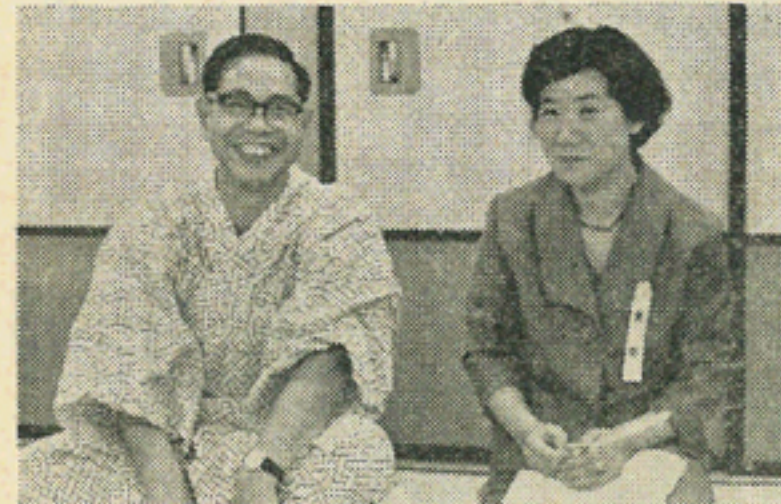
一、運の強い連中はかりと見えて各々風格で出て頼もしい限りでした。二、寮歌ながれストームおこるに至って若かりし思い出甦り、感慨また新たに

室谷 委員長 夫妻

藤城 夫妻

賀川夫人(左)と鎌谷夫人(右)

大滝 夫妻



①

②

③

- 上① 第4寮出身者寮歌合唱 (左より木村実君, 山家君, 高野君)
- ② 第3寮出身者の幹歌合唱 (左より窪田, 篠原, 関根の三君)
- 下① 福田夫妻
- ② 可愛い御嬢さんと共に齊藤大蔵夫妻
- ③ 石垣夫人(左)と青塚夫人(右)

御中元には
緑丘人の家庭に
夢を贈る



世界の味

料理缶詰



全国デパート
有名食料品店
にごさいます

五缶入 ¥700 八缶入 ¥1,000 十二缶入 ¥1,500

料理罐詰

- ロシア風 ボルシチ
- イタリア風 ミートソース
- ハンガリー風 ビーフシチュー
- 印度風 ビーフカレー
- 英国風 トマトスープ
- アメリカ風 コーンスープ
- オランダ風 いちごジャム
- ポルトガル風 ママレード

ひとこと
家庭に居ながらにして、「舌の世界漫遊」をしようというのが、これの狙いです。
このメーカーの水垣さん(MCC食品株式会社)は舌の達人で世界各国味の行脚をしてその結果の所産です。とも角食べてごらんください、きっとマニヤになります。

川島四郎
農博(栄養と食糧の研究者)

エムシーシー食品株式会社

神戸市長田区菊藻通5丁目15 TEL代(67)1245

取締役社長 水垣敏正(昭5)

小川 愛 策
二十五年ぶりのクラス会ホントに楽しい集いでした。ただ残念なことはその席上消息の判らなかつた方の内六人も亡くなっておられることでした。

進藤 富夫
一別以来二十五年の再会各々往年の面影を止めて楽しく大丈夫大丈婦。皆様の再会の喜びをまのあたりに見て心暖まる思いがしました。幹事の皆様に厚く御礼申します。次回を楽しみに。

窪田 多々男
良き時代良き学園で良き友を得、生きていることの有難さを感じます。

林 寅男
ほんとうに楽しい会でした。五年後再会の時には皆さんまたどんなに面変わりしているかと楽しみです。幹事の方々には心から御礼申し上げます。

柳川 憲夫
懐しき友、会いたき人に会えて嬉しさ格別。次の機会を又指折り待とう。

竹屋 政雄
静子

静かな網代湾にのぞんだ小樽商大卒業二十五周年同期会は盛会で、夫人同伴という幹事の方のいきな計のため、私共まで大へんたのしませて頂きました。皆様若く意気軒昂御活躍の程目のあたり拝

見し心強く存じました。この次の三十年もぜひ夫人同伴を願ひ再会をたのしみに御健勝御発展祈り申上ります。



竹屋夫人(後方中央)と御子達

高野 憲一郎
次の大会には永年苦勞(?)をかけた良妻を同伴して楽しみを分かちたい。

福田 次助
「木っ葉微塵」の感触、我等は緑丘男児なりの感激新たな夜だった。

若山 永太郎
「三十周年大会には絶対に私もついて行きます」……と女房が意気まいております。

(編集・文責)若山

KYC

- KYC ベルトコンベヤー各種
- KYC コンクリート・ミキサー各種
- KYC スラッター・コンベヤー各種
- KYC モーター・プーリー各種
- KYC ポンプ各種
- KYC バッチャープラント各種

光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美(昭17年)

本社	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3091~5(代表)
大阪支店	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3091~5・8291~5
東京支店	東京都千代田区神田小川町二丁目三番地	電話東京(291)1216・1309
九州営業所	福岡市中浜口町一九番地	電話福岡(3)1841・2421
名古屋出張所	名古屋市東区堅代官町一四番地	電話名古屋(94)1315
仙台出張所	仙台市北材木町三九番地	電話仙台(22)5247
札幌出張所	札幌市南十一条西八丁目五四の一の二番地	電話札幌(5)9868
工場	寝屋川・守口・吹田・東京所沢	